令和８年度全国学力・学習状況調査の結果分析のポイント



1 岩手県における令和８年度全国学力・学習状況調査の概要

令和８年10月
学校教育室学力向上担当

調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

調査概要

調査実施日	令和８年４月20日（月）～５月29日（金）
実施状況	小学校第６学年（義務教育学校前期課程、特別支援学校小学部を含む）／8,092人（249校） 中学校第３学年（義務教育学校後期課程、特別支援学校中学部を含む）／7,985人（137校）
調査事項	①児童生徒：教科調査〔国語、算数･数学、英語（中学校のみ）〕/ 質問調査 ②学校：質問調査
今年度の調査の特徴	・中学校・英語（４技能「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」）の全面CBT（Computer Based Testing）化 ※「話すこと」調査のみ令和５年度もCBTで実施 ・小学校・児童質問でのランダム方式の導入

平均正答率 IRTスコア

		岩手県		全国	
		R8(カッコ内は全国との差) 英語はIRTスコア（４技能）	R7(カッコ内は全国との差) 英語はR5	R8 英語はIRTスコア	R7 英語はR5
小学校第６学年	国語	61％（　0）	67％　（　0）	61％	67％
	算数	54％（▼２）	54％　（▼４）	56％	58％
中学校第３学年	国語	64％（　0）	54％　（　0）	64％	54％
	数学	53％（▼４）	43％　（▼５）	57％	48％
	英語	467　（▼32）	37％　（▼９）	499	46％

平均正答率結果概要（小学校）

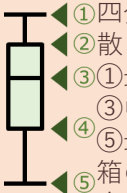
・本県の国語の平均正答率は、昨年度に引き続き全国と同値である。算数は全国の平均正答率から－２ポイントであるが、令和６年度から２年連続の－４ポイントから２ポイントの上昇となり、改善傾向が見られる。
・正答率の分布から、国語および算数において、全国的なばらつきの傾向と比較して大きな差は見られなかった。
・国語の小問正答数ごとの割合および四分位層の割合は、全国の結果と比較して大きな差は見られなかったが、算数においては、全国の結果と比べ、中位層から下位層の割合がやや大きく、上位層がやや小さい結果となった。

平均正答率

		小学校（第６学年） 国語	小学校（第６学年） 算数
令和８年度		61%	54%
令和７年度		67%	54%
全国平均との差	令和８年度	±0%（±0.0/13問）	-2%（-0.3/16問）
	令和７年度	±0%（±0.0/14問）	-4%（-0.6/16問）

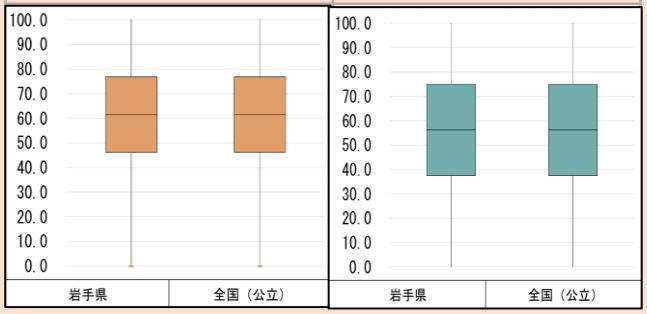
正答率の分布（箱ひげ図）

箱ひげ図



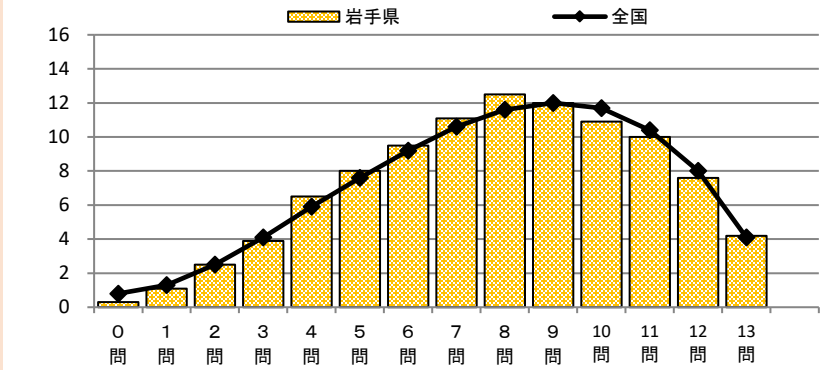
①四分位数を用いてデータの
②散らばりを表す図。
③①最大値、②第３四分位、③中央値、④第１四分位、⑤最小値で構成される。
④
⑤箱の範囲（②～④の間）に全体の50%が含まれる。

小学校（第６学年）

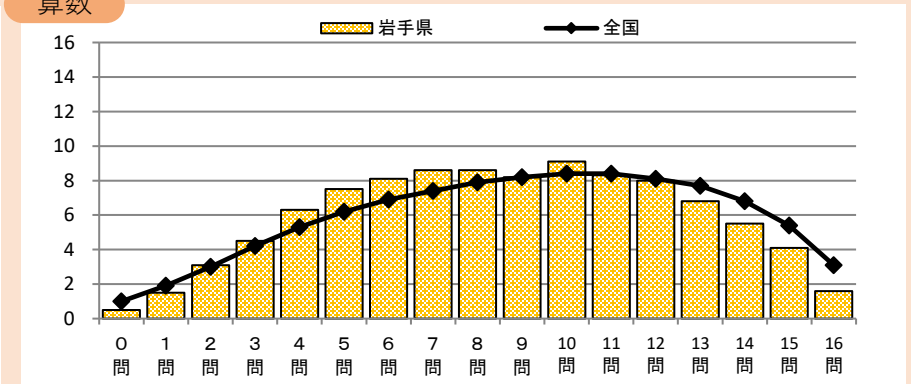


ヒストグラム

国語

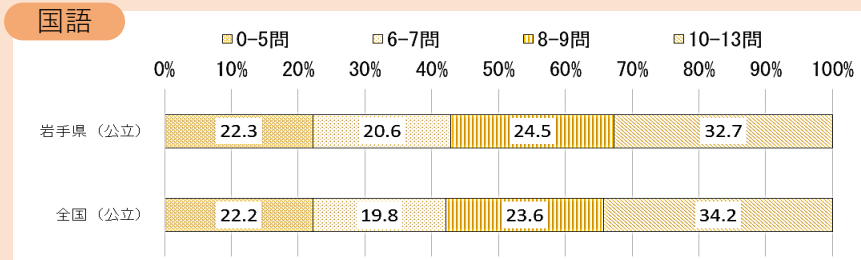


算数

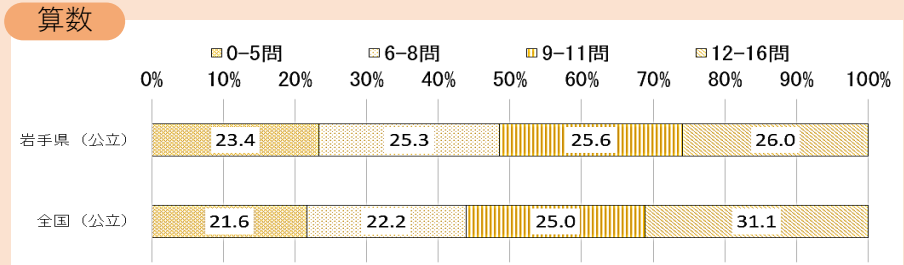


四分位層分布

国語



算数



平均正答率・IRTスコア結果概要（中学校）

・本県の国語の平均正答率は全国と同程度である。数学は全国の平均正答率から－４ポイントであるが、昨年度より１ポイントの上昇となり、やや改善傾向が見られる。令和５年度から３年振りの実施となった英語は、全面CBTによる実施となり、IRTスコアは全国と比較して32ポイント下回った。
・箱ひげ図から、国語では全国との大きなばらつきの差は見られないが、数学および英語では、全体として箱の位置が全国よりも低く、中央値においても全国と一定の差が見られる。数学においては、全国の結果と比べ、上位層の割合がやや小さく、中位層から下位層の割合がやや大きい。
・英語のIRTバンドの分布においては、バンド２の割合が全国よりも大きく、バンド４から５の割合が小さい。

平均正答率・平均IRTスコア

		中学校（３年生） 国語	数学	英語（4技能）
令和８年度※1		64%	53%	467
令和７年度※2		54%	43%	37%
全国平均との差	令和８年度※1	±0%（±0.0/15問）	-4%（-0.6/16問）	-32
	令和７年度※3	±0%（±0.0/14問）	-5%（-0.8/15問）	-9%（-1.4/17問）

正答率の分布（箱ひげ図）

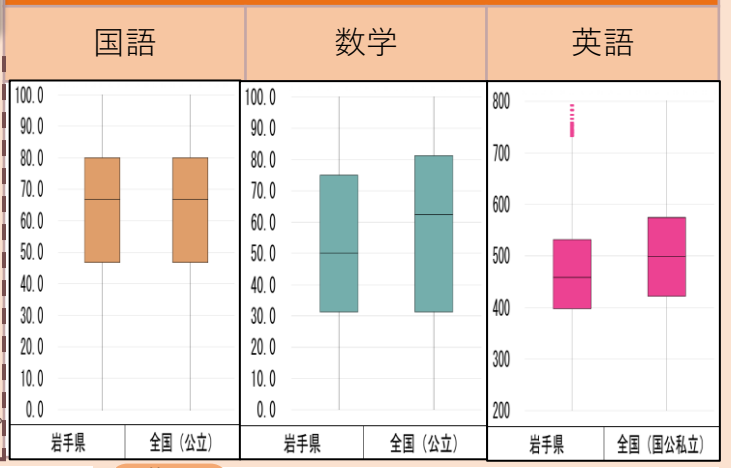
箱ひげ図



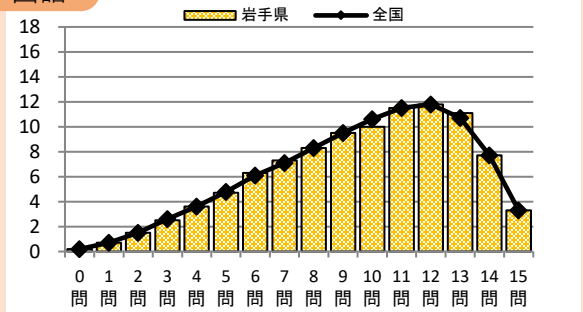
①
②
③
④
⑤

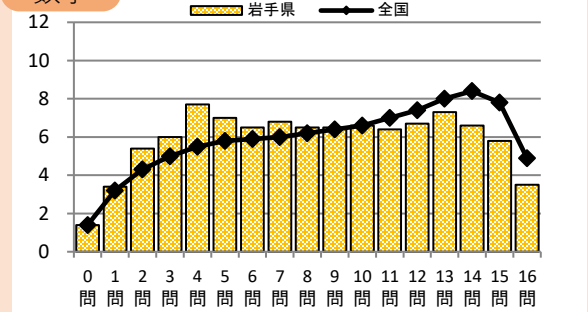
四分位数を用いてデータの散らばりを表す図。①最大値、②第３四分位、③中央値、④第１四分位、⑤最小値で構成される。箱の範囲（②～④の間）に全体の50%が含まれる。

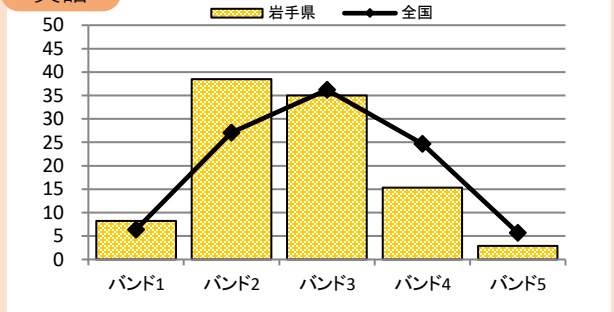
小学校（６年生）



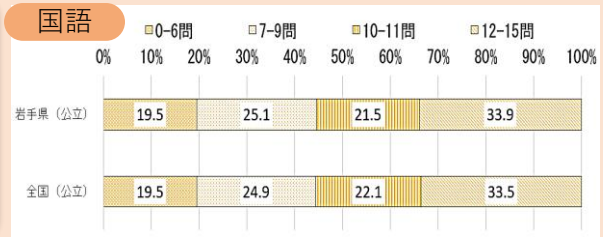
ヒストグラム※4

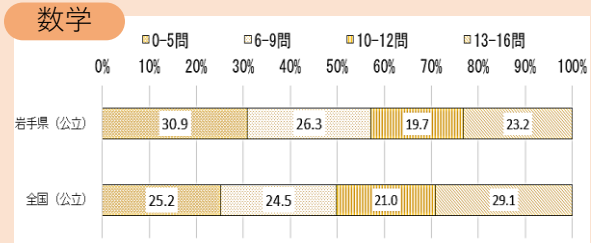


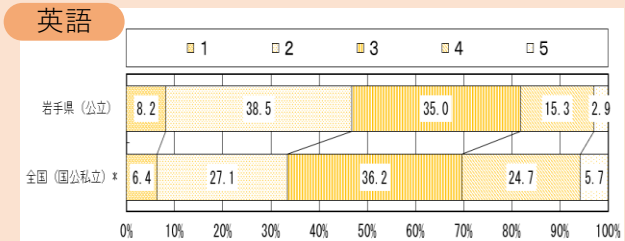




四分位層分布※4







（※１）英語は平均IRTスコア、その他は平均正答率　（※２）英語は直近の令和５年度実施分の値　（※３）英語は令和５年度実施分における差。令和５年度実施の中学校英語は全面CBTでの実施ではなかったことに留意
（※４）英語は、IRTバンド（IRTスコアを1～5の5段階に区切ったもの。３を基準のバンドとし、5が最も高いバンド）の分布

文部科学省「都道府県・指定都市別ノート〈岩手県〉」及び「令和8年度全国学力・学習状況調査の結果公表③」の結果概要

「都道府県・指定都市別ノート〈岩手県〉」より

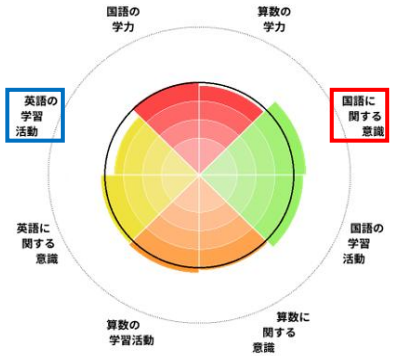
都道府県・指定都市別ノート→

- **全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。**
- 小学校のＤ層の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- 中学校のＤ層の割合、バンドⅠの割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- 小学校においては、**「読書等」**や**「国語に関する意識」**領域のスコアについて、高い結果が出ている（なお、いずれも全国と比較して高い）。
  また、**「英語の学習活動」**や**「ICTを活用した学習状況」**領域のスコアについて、低い結果が出ている。（「英語の学習活動」は全国と比較しても低い）
- 中学校においては、**「主体的・対話的で深い学び」**や**「向社会性」**領域のスコアについて、高い結果が出ている（なお、いずれも全国と比較して高い）。
  また、**「ICTを活用した学習状況」**や**「自己有用感・心理的安全性等」**領域のスコアについて、低い結果が出ている。

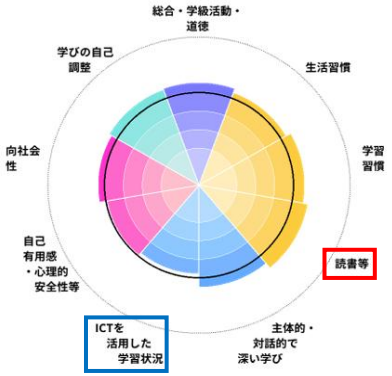
小学校

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

［教科を中心とした学力・学習状況］（全国基準）



［その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）］（全国基準）

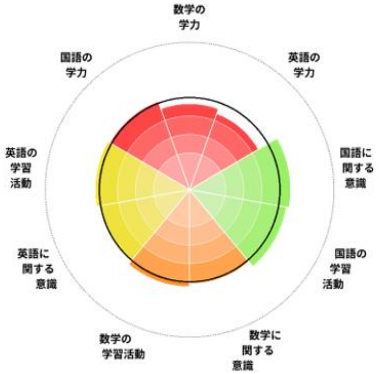


※ 児童生徒質問番号との対応については、「都道府県・指定都市別ノート」参照

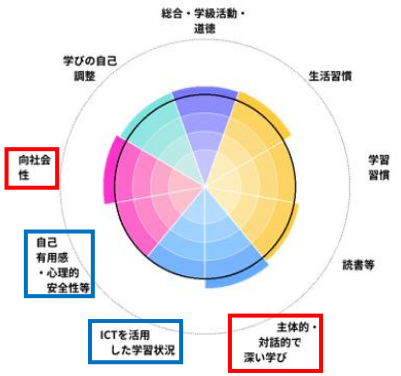
中学校

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

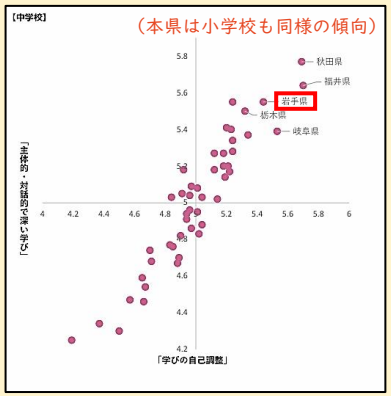
［教科を中心とした学力・学習状況］（全国基準）



［その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）］（全国基準）

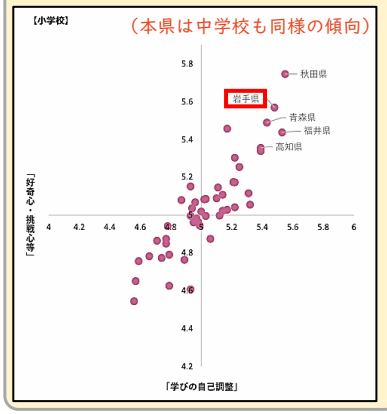


【主体的・対話的で深い学び】×【学びの自己調整】



本県児童生徒は**「分からないことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫しているか」「授業の課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか」**など、【学びの自己調整】と【主体的・対話的で深い学び】の項目において、どちらも全国平均を大きく上回っている。

【好奇心・挑戦心等】×【学びの自己調整】



本県児童生徒は**「課題が難しくなると、さらに努力する方か」「新しいことを学ぶのは好きか」**など、【好奇心・挑戦心等】についても全国平均を大きく上回っており、【学びの自己調整】と相互に関連する可能性が大きい都道府県の一つとして取り上げられている。

低SESグループで学力D層の平均正答率 中学校数学１位、小学校算数２位

本県児童生徒は、社会経済的に困難を抱え、学力調査のスコアが低い児童生徒の平均正答率が全国と比較して高い。

このことは、児童生徒一人ひとりを大切に指導を行ってきた成果であるとともに、本県の長年にわたる教育振興運動の取組が根底にあると考えられる。

・SES…社会経済的背景。
・学力D層…小学校算数は０～５問、中学校数学は０～４問正解した層。

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果公表③→

2 教科に関する調査結果（１）（小学校国語）

結果概要

・本県の平均正答率は61％であり、昨年度同様、全国平均正答率と同程度となっている。

○記述式問題である大問２四**〔思考力，判断力，表現力等〕**の「書くこと」における**「引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」**に関する問題が全国平均正答率を3.3ポイント上回っており、引用する目的を明確にすることや、引用部分と考えとの関係を明確にして区別して書くことに関する指導の成果が伺える。

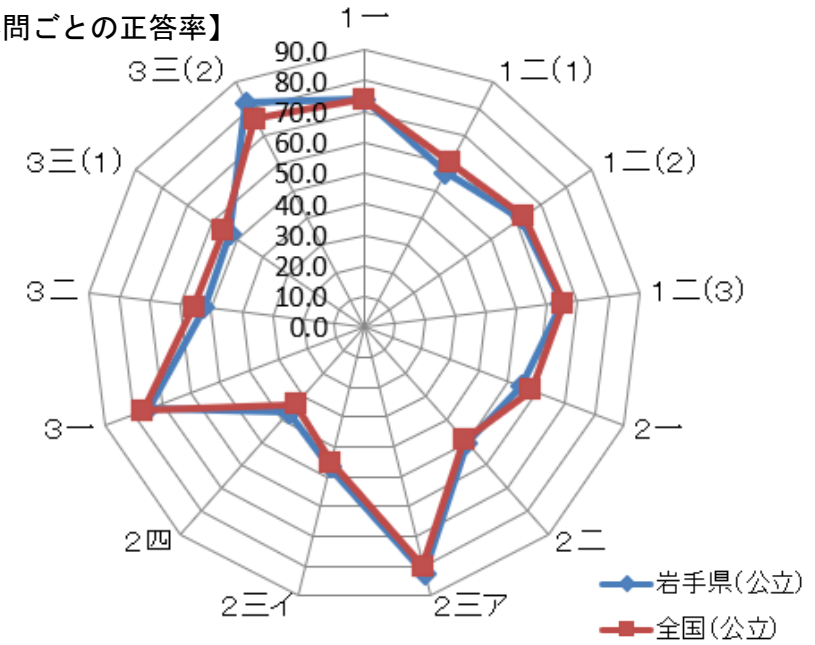
○同じく記述式問題である大問３三（２）**〔思考力，判断力，表現力等〕**の「読むこと」における**「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること」**に関する問題が全国平均正答率を6ポイント上回っており、「精査・解釈」及び「考えの形成」に関する指導の成果が伺える。

●選択式問題である大問１二（１）**〔思考力，判断力，表現力等〕**の「話すこと・聞くこと」における**「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」**に関する問題が全国平均正答率を3.4ポイント、同じく大問２一「書くこと」における「筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること」に関する問題が全国平均正答率を3.2ポイント下回った。相手や目的を考えた資料の活用や、文章全体の構成や展開を考えることについて課題がある。

分類		区分	問題数（問）	平均正答率（%）（　）は全国
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	4	67.1(66.8)
		(2)情報の扱い方に関する事項	2	51.3(52.3)
		(3)我が国の言語文化に関する事項	0	／
	思考力、判断力、表現力等	A　話すこと・聞くこと	3	64.3(65.8)
		B　書くこと	2	45.7(45.7)
		C　読むこと	2	67.6(65.9)
評価の観点		知識・技能	6	61.9(62.0)
		思考・判断・表現	7	60.0(60.1)
問題形式		選択式	9	60.3(61.9)
		短答式	2	64.5(62.6)
		記述式	2	59.6(54.9)

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
7.9/13問	61%	8問	2.9問	8問

【小問ごとの正答率】



2 教科に関する調査結果（１）（小学校国語） 話すこと・聞くこと

【第５・６学年】〔思考力、判断力、表現力等〕
Ａ　話すこと・聞くこと
ウ　資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

結果のポイント①

資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題がある。

具体的な設問例 大問１二（１）

【動画の一部】の工夫として適切なものを２つ選択する。

二　岡野さんたちのグループは、【構成メモ】をもとに、「中①」を次の【動画の一部】のようにさつえいしました。これをよく読んで、あとの(1)から(3)の問いに答えましょう。

(1)【動画の一部】



岡野さんたちのグループは、【動画の一部】をくふうしてさつえいしました。そのくふうとして適切なものを、次の1から5までの中から二つ選んで、その番号を書きましょう。

1　草花で遊べる場所への行き方を映像で示すことで、草花遊びへの関心を高めている。
2　くき笛の実際の音を示すことで、言葉の説明だけでは分かりにくい内容が伝わるようにしている。
3　くき笛を作る映像に文字の説明を加えて示すことで、遊び方の手順が伝わるようにしている。
4　くきの長さを映像で比べて示すことで、くき笛にしやすいたんぽぽを見分けやすくしている。
5　手元や口元を大きく映して映像で示すことで、くき笛の遊び方が伝わるようにしている。

県　56.8%（−3.4）
国　60.2%

解答の分析

正答 [正答率56.8%]	２、５
誤答例	２と解答しているが、５と解答していない ・・・反応率20.4%（全国18.2%） ５と解答しているが、２と解答していない ・・・反応率19.2%（全国17.8%）

○誤答の解説
- ２と解答しているが、５と解答していない児童は、資料を活用する際に、手元や口元を大きく映して映像で示すことで、茎笛の遊び方が伝わるようにしていることを捉えることができなかったと考えられる。
- ５と解答しているが、２と解答していない児童は、資料を活用する際に、茎笛の実際の音を示すことで、言葉の説明だけでは分かりにくい内容が伝わるようにしていることを捉えることができなかったと考えられる。
- 選択肢３や選択肢４を選んだ児童の中には、資料を活用して表現を工夫する場合に目的や相手、状況などを踏まえ、話す内容と資料との整合などに注意する必要があることを十分に意識できなかった児童がいたと考えられる。

指導改善のポイント

表現を工夫するためには、**相手や目的を一層意識し、聞き手の興味・関心や情報量などを予想し、どのような資料を用意すればよいか**考えることが大切である。また、補足説明が必要な箇所や言葉だけでは伝わりにくい内容については、どのように資料を活用することが効果的であるか考え、資料を提示しながら話す仕方について検討することも大切である。

2 教科に関する調査結果（１）（小学校国語） 書くこと

【第５・６学年】〔思考力、判断力、表現力等〕 Ｂ 書くこと
イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。

結果のポイント②

筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることに課題がある。

具体的な設問例 大問２一

文章の工夫を説明したものとして適切なものを選択する。

2 花山さんの学級では、夏を快適に過ごすためのくふうについて調べて考えたことを書き、友達と報告し合うことにしました。花山さんは、「暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう」について調べ、文章を書いています。次の【花山さんの文章の一部】をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【花山さんの文章の一部】

暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう

1 はじめに

夏休みに外出したとき、長そでの服を着ている人を見かけた。暑いときは、そでがアみじかい方がすずしいのではないか。なぜ、長そでの服を着ているのかイふしぎに思い、暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふうについて調べることにした。

2 どうして暑い日に長そでの服を着るのか

「生活と太陽」という本には、「日差しの強いときにはだを出して日焼けをすると、はだがひりひりしたり、水分が失われたりする。」と書かれている。また、「世界の衣服」という本には、「暑い国の中には、はだのほとんどを衣服でおおっている人たちがいる。皮ふに直しゃ日光を当てない方がすずしいのである。」と書かれている。①強い日差しが照りつけるえん天下では、はだを出しすぎないように着る物をくふうすることができそうだ。

では、すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのだろうか。

3 すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのか

「熱中しょうかん境保健マニュアル２０２２」には、暑さをさける衣服のくふうとして、「ゆったりした衣服にする。」、「えり元をゆるめて通気する。」と書かれている。また、「夏のくらし方」という本には、「服とはだの間に風が通るようにえり元やすそをゆったりさせると、すずしくなります。」と書かれている。〈図〉のように衣服の形や着方を意識してくふうすることで、長そでの服でもすずしく快適に過ごすことができそうだ。

では、衣服の形や着方以外に、快適に過ごすくふうはあるのだろうか。

〈図〉



一 【花山さんの文章の一部】まで書き進めた花山さんは、読み手もいっしょに考えて読むことができる文章になっているかどうかを確かめています。花山さんの文章のくふうを説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 調査の目的や手順、調査結果を順序立てて書いている。

2 結論を最初に述べ、それを支える事例を複数取り上げて書いている。

3 疑問と調べて分かったこと、次の疑問をくり返して書いている。

4 複数の事例の長所と短所を比べて書いている。

県 54.7%（−3.2）
国 57.9%

解答の分析

正答［正答率54.7%］	3
誤答例	１・・・反応率26.0%（全国25.2%） ２・・・反応率11.4%（全国9.4%） ４・・・反応率7.6%（全国6.4%）

○誤答の解説
・１と解答した児童は、花山さんが、調査の目的や手順、調査結果を順序立てて書いていると捉えており、疑問と調べて分かったこと、次の疑問を繰り返して書いていると捉えることができなかったと考えられる。この中には、「始め」「中」「終わり」の文章全体の構成には着目することができていたが、花山さんが「中」のつながりや配列をどのように意識して書いたかを捉えることができなかった児童がいたと考えられる。

指導改善のポイント

筋道の通った文章にするためには、文章全体の構成を工夫することに加え、**例えば、「考えと理由や事例」、「原因と結果」、「疑問と解決」などのつながりや配列を意識して文章全体の筋道を整えていくこと**が大切である。

学習指導に当たっては、これまで扱った説明的な文章を想起し、「考えを最初に書き、考えを支える理由や事例をその後に並列で書いているもの」や、「疑問を投げかけて、その疑問を解決していくように述べるもの」、「身近な話題から少しずつ目新しい話題へと展開していくもの」など、それぞれの論の進め方とその効果について整理することなども考えられる。

2 教科に関する調査結果（１）（小学校国語）

【第５・６学年】〔思考力、判断力、表現力等〕　B　書くこと
イ　筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。

● **筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることに課題が見られる**

→　どのような論の進め方があり、それらがどのような効果をもたらしていたかを整理することなどを通して、目的に応じて、ふさわしいつながりや配列を考えて書き表すことができるようにする。



小学校国語 大問２ー

筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかを見る問題

２　花山さんの学級では、夏を快適に過ごすためのくふうについて調べて考えたことを書き、友達と報告し合うことにしました。花山さんは、「暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう」について調べ、文章を書いています。次の【花山さんの文章の一部】をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【花山さんの文章の一部】

暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう

1　はじめに

夏休みに外出したとき、長そでの服を着ている人を見かけた。暑いときは、そでがアみじかい方がすずしいのではないか。なぜ、長そでの服を着ているのかイふしぎに思い、暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふうについて調べることにした。

2　どうして暑い日に長そでの服を着るのか

「生活と太陽」という本には、「日差しの強いときにはだを出して日焼けをすると、はだがひりひりしたり、水分が失われたりする。」と書かれている。また、「世界の衣服」という本には、「暑い国の中には、はだのほとんどを衣服でおおっている人たちがいる。皮ふに直しゃ日光を当てない方がすずしいのである。」と書かれている。①強い日差しが照りつけるえん天下では、はだを出しすぎないように着る物をくふうすることができそうだ。

では、すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのだろうか。

3　すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのか

「熱中しょうかん境保健マニュアル２０２２」には、暑さをさける衣服のくふうとして、「ゆったりした衣服にする。」、「えり元をゆるめて通気する。」と書かれている。また、「夏のくらし方」という本には、「服とはだの間に風が通るようにえり元やそでをゆったりさせると、すずしくなります。」と書かれている。〈図〉のように衣服の形や着方を意識してくふうすることで、長そでの服でもすずしく快適に過ごすことができそうだ。

では、衣服の形や着方以外に、快適に過ごすくふうはあるのだろうか。

〈図〉



一　【花山さんの文章の一部】まで書き進めた花山さんは、読み手もいっしょに考えて読むことができる文章になっているかどうかを確かめています。花山さんの文章のくふうを説明したものとして最も適切なものを、次の１から４までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1　調査の目的や手順、調査結果を順序立てて書いている。
2　結論を最初に述べ、それを支える事例を複数取り上げて書いている。
3　疑問と調べて分かったこと、次の疑問をくり返して書いている。
4　複数の事例の長所と短所を比べて書いている。

正答	３…正答率54.7%(全国57.9%)
誤答例	１…反応率26.0%(全国25.2%) ２…反応率11.4%(全国9.4%) ４…反応率7.6%(全国6.4%)

授業実践アイディア例

「夏を快適に過ごすための工夫について報告する文章を書こう」
～筋道の通った文章となるように構成や展開を工夫する～

第１時　　夏を快適に過ごすための工夫について報告する文章を書くことに見通しをもち、本などの資料から情報を集め、整理する。

第２時　　モデル文を比較し、読み手への伝わり方を考えて構成メモを作る。

【例】・モデルA　考えを支える理由や事例が並列で書かれている文章。
・モデルB　身近な話題から目新しい話題などへ展開していく文章。
・花山さんの文章
※モデルA・Bは教師が自作。あるいは似た構成の既習の説明文（A『こまを楽しむ』など・B『すがたをかえる大豆』など）を使う。



文章を書く前に、どんな報告文の書き方があるのか、「中」の書かれ方に注目して、３つの文章を読み比べてみましょう。

花山さんの文章は、疑問と解決の繰り返しだから、一緒に考えているみたいで楽しく読めるよ。

Aの文章は、１つの考えに対して、それに合った例がいくつか出てくるから、納得できるね。



Bの文章は、話題が広がっていくから、どんどん興味が出てくるよ。

わたしは、**読んだ人に一緒に考えてほしいから、花山さんの書き方を参考にしたい**なあ。

※構成メモの例

読み手に	いっしょに考えて読んでほしい
⇒タイプ	考えと事例　話題の広がり　疑問と解決
はじめ	暑い夏になぜ長そでを着ている人がいるのか？
中①	・暑い夏になぜ長そでを着るのか？（問い） ・『生活と太陽』から（引用） ・『世界の衣服』から（引用） ・えん天下ではだを出しすぎないくふう（考え）
中②	・すずしく過ごせる長そでの着方は？（問い） ・『熱中しょうかん境保健マニュアル 2022』から（引用） ・衣服の形や着方のくふう（考え）
おわり	くふうして暑い夏を快適に過ごそう。

そうですね。どのように読んでほしいのかを考え、集めた情報を使って構成メモを作りましょう。



ポイント①
★読み手への伝わり方を考え、目的に応じて、**つながりや配列を工夫**する。

第３時　　構成メモに沿って、事実を正確に引用しながら筋道立てて記述する。

第４時　　文章を読み合い、構成や展開の効果を振り返る。

【学習活動例】
相手の意図を聞かずに読み、「考えと事例」、「話題の広がり」、「疑問と解決」から選んで○を付ける。結果について感想を交流する。

ポイント②
★第２時で計画した構成の意図が、**読み手に伝わったか**を確かめ合う。

2 教科に関する調査結果（２）（中学校国語）

結果概要

・本県の平均正答率は64％であり、昨年度同様、全国平均正答率と同程度となっている。また、領域および評価の観点ごとの平均正答率も、全国と比べて大きな差は見られない。

○記述式問題である大問３四〔**思考力，判断力，表現力等**〕の「書くこと」における**「表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすこと」**に関する問題が全国平均正答率を1.5ポイント上回っている。今後も、「共有」における指導の工夫を継続していく。

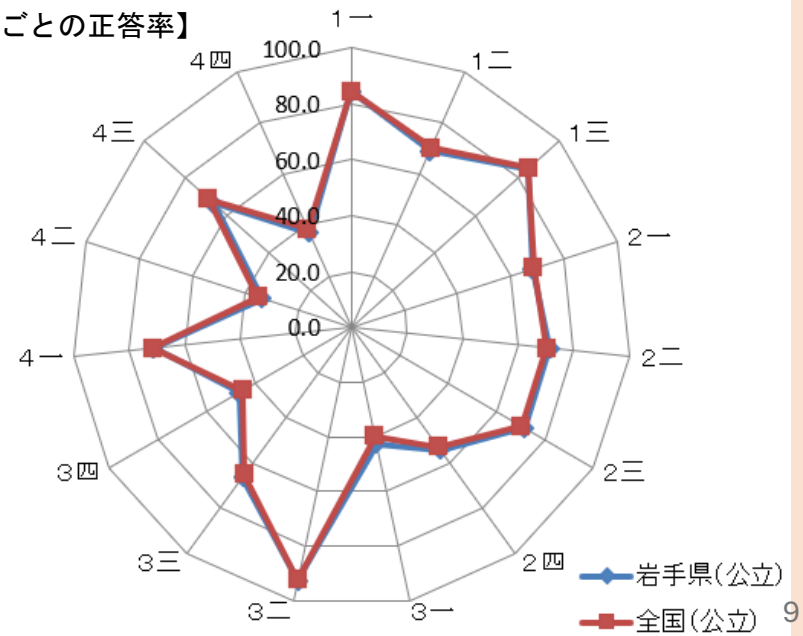
●短答式問題である大問３一〔**知識及び技能**〕の「言葉の特徴や使い方に関する事項」における**「文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うこと」**に関する問題が全国平均正答率を2.7ポイント上回っているが、正答率は42.5％に留まっており、課題が見られる。

●記述式問題である大問４四〔**思考力，判断力，表現力等**〕の「読むこと」における**「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすること」**に関する問題が全国平均正答率を1.8ポイント下回っており、文章の内容についてどのように把握したり解釈したりしたかを踏まえ、確かめながら自分の考えを形成していくことに課題がある。

分類		区分	問題数（問）	平均正答率（％）（　）は全国
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	5	62.9(63.0)
		(2)情報の扱い方に関する事項	1	71.7(70.4)
		(3)我が国の言語文化に関する事項	0	／
	思考力、判断力、表現力等	A　話すこと・聞くこと	3	64.5(63.9)
		B　書くこと	3	68.5(67.4)
		C　読むこと	3	58.3(59.7)
評価の観点		知識・技能	6	64.4(64.2)
		思考・判断・表現	9	63.8(63.7)
問題形式		選択式	9	72.6(72.7)
		短答式	3	56.3(55.8)
		記述式	3	45.9(45.5)

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
9.6/15問	64%	10問	3.3問	12問

【小問ごとの正答率】



2 教科に関する調査結果（２）（中学校国語）言葉の特徴や使い方に関する事項

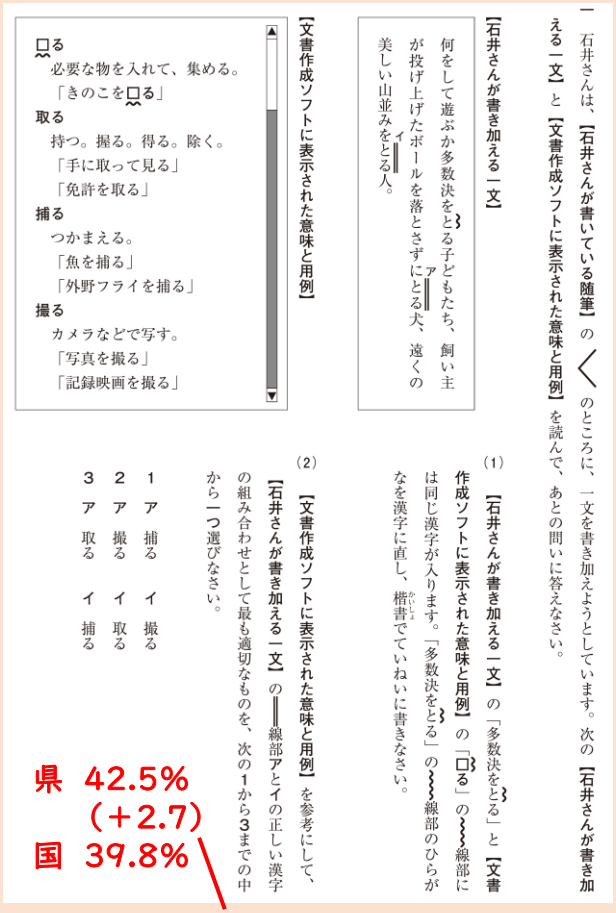
【第２学年】〔知識及び技能〕(1)言葉の特徴や使い方に関する事項
ウ　第１学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字350字程度から450字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。

結果のポイント①

文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことに課題がある。

具体的な設問例 大問３一

文書作成ソフトに表示された意味と用例を参考にして、漢字を書き、漢字の組合せとして適切なものを選択する。



一　石井さんは、【石井さんが書いている随筆】の＼＼のところに、一文を書き加えようとしています。次の【石井さんが書き加える一文】と【文書作成ソフトに表示された意味と用例】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【石井さんが書き加える一文】

何をして遊ぶか多数決をとる子どもたち、飼い主が投げ上げたボールを落とさずにとる犬、遠くの美しい山並みをとる人。

【文書作成ソフトに表示された意味と用例】

□る
　必要な物を入れて、集める。
　「きのこを□る」
取る
　持つ。握る。得る。除く。
　「手に取って見る」
　「免許を取る」
捕る
　つかまえる。
　「魚を捕る」
　「外野フライを捕る」
撮る
　カメラなどで写す。
　「写真を撮る」
　「記録映画を撮る」

(1)　【石井さんが書き加える一文】の「多数決をとる」と【文書作成ソフトに表示された意味と用例】の「□る」の～線部には同じ漢字が入ります。「多数決をとる」の～線部のひらがなを漢字に直し、楷書でていねいに書きなさい。

(2)　【石井さんが書き加える一文】の＝線部アとイの正しい漢字の組み合わせとして最も適切なものを、次の1から3までの中から一つ選びなさい。

1　ア　捕る　イ　撮る
2　ア　撮る　イ　取る
3　ア　取る　イ　捕る

県　42.5%（+2.7）
国　39.8%

※　全国平均を上回っているが、正答率は低い。

解答の分析

正答［正答率42.5%］	(1)で「採る」と書き、(2)で正答の選択肢１を選んでいる。
誤答例	①　(1)で「採る」と書き、(2)で誤答の選択肢２か３を選んでいる。…反応率1.1%(全国0.9%) ②　(1)で「採る」と書かず、(2)で正答の選択肢１を選んでいる。…反応率48.7%(全国49.9%)

○誤答の解説
・誤答例②の生徒は、意味と用例を参考にして適切な漢字の組合せを選択することはできているが、漢字を書くことができていない。この中には、「採」という漢字について、「必要な物を入れて、集める」という用例から捉えられる意味と、「とる」という読みが、字形と結びつかなかった生徒がいたと考えられる。

指導改善のポイント

漢字を文や文章の中で使い慣れるよう指導する際には、各学年の語彙の指導事項の内容と関連付け、音訓を意識し、同音異義語などの意味の違いに注意するなどして、漢字を正しく使うことができるよう指導することが大切である。**１人１台端末を活用して文章を作成する際にも、漢字がもつ意味に注意して、適切に選択することができるよう指導すること**が重要となる。その際、手書きで漢字を書くことを通して、漢字の構成要素である「へん」や「つくり」などに注目し、字形を正しく捉えたり読みを類推したり、大まかな意味を捉えたりすることが効果的である。

2 教科に関する調査結果（２）（中学校国語）　読むこと

【第１学年】〔思考力、判断力、表現力等〕　Ｃ　読むこと
オ　文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすること。

結果のポイント②	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることに課題がある。
具体的な設問例 大問４四	二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く。 条件１：〈例文２〉の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書いている。 条件２：「きっぱり」について考えたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書いている。

四　林さんは、本文を読んで理解したことをより深めるために、**〈具体的な場面〉**を思い浮かべながら、二種類の例文を書いてみました。あなたは、**〈例文１〉**と**〈例文２〉**を比べて、擬態語にはどのような効果があると考えますか。あとの**条件１**と**条件２**にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

（中田智子「会話の表情を表わす擬音語・擬態語」による。）

〈具体的な場面〉



〈例文１〉（擬態語を使っていない例文）

「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」

生徒は言った。

〈例文２〉（擬態語を使った例文）

「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」

生徒はきっぱりと言った。

条件１　**〈例文２〉**の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くこと。

条件２　**条件１**で書いたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書くこと。

（中田智子「会話の表情を表わす擬音語・擬態語」による。）

県　37.1%（－1.8）
国　38.9%

解答の分析

正答例［正答率37.1%］	「きっぱり」は、生徒が先生に向かって、自信を持って力強く言い切っている様子を表している。このように、擬態語は話している様子の包括的なイメージを表現することができる。
誤答例	①　条件１は満たしているが、条件２を満たしていないもの・・・反応率35.5%（全国35.1%） 例）「きっぱり」という擬態語を使うことよって生徒がたくさん練習をしてきて、発表に自信があるように感じさせる効果がある。 ②　条件２は満たしているが、条件１を満たしていないもの・・・反応率2.1%（全国2.5%）

○誤答の解説
・誤答例①の生徒は、「きっぱり」が表す様子について具体的に書くことはできているが、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書くことができていない。本文の叙述を基に擬音語・擬態語について理解することができていないと考えられる。また、本文の内容を踏まえず、知識や経験等に基づいて解答したものとも考えられる。

指導改善のポイント

文章を読んで自分の考えを確かなものにするためには、**自分の考えと、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことと結び付けるなど**して、改めて自分が文章をどのように捉えたのかを振り返ることなどが考えられる。その際、自分の考えを述べることにとどまらず、自分がその文章の内容についてどのように把握したり解釈したりしたかを踏まえ、確かめながら考えを形成していくことが大切である。

2 教科に関する調査結果（２）（中学校国語）

【第１学年】〔思考力、判断力、表現力等〕　C　読むこと
オ　文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすること。

● **文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることに課題が見られる。**

→ **文章に書かれている大まかな内容について自分の考えを述べることにとどまるのではなく、自分がその文章の内容についてどのように把握したり解釈したりしたかを十分に踏まえ、それを常に確かめながら考えを形成していくことができるようにする。**



中学校国語 大問４四

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかを見る問題

四　林さんは、本文を読んで理解したことをより深めるために、〈具体的な場面〉を思い浮かべながら、二種類の例文を書いてみました。あなたは、〈例文１〉と〈例文２〉を比べて、擬態語にはどのような効果があると考えますか。あとの**条件１**と**条件２**にしたがって書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

〈具体的な場面〉



〈例文１〉〈擬態語を使っていない例文〉
「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒は言った。

〈例文２〉〈擬態語を使った例文〉
「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒はきっぱりと言った。

条件１　〈例文２〉の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くこと。
条件２　**条件１**で書いたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書くこと。

正答例

○「きっぱり」は、生徒が先生に向かって、自信を持って力強く言い切っている様子を表している。このように、擬態語は話している様子の包括的なイメージを表現することができる。
…正答率 37.1%
（全国38.9%）

誤答例

①条件１は満たしているが、条件２を満たしていないもの。
…反応率35.5%
（全国35.1%）
(例)「きっぱり」という擬態語を使うことによって生徒がたくさん練習をしてきて、発表に自信があるように感じさせる効果がある。

②条件２は満たしているが、条件１を満たしていないもの。
…反応率2.1%
（全国2.5%）

授業実践アイディア例

「擬態語が表す様子とその効果について考えよう」
～自分の考えと文章から理解したことを結び付ける～

第１時　文章の構造と内容を捉え、自分の考えを書く見通しをもつ。
第２時　二つの例文を比較し、条件に合わせて自分の考えを記述する。
第３時　記述を読み合い、自分の考えが本文の叙述に基づいているか確かめる。

【学習活動例】
互いのワークシートを読み合い、記述の中の「様子（条件１）」に＜赤線＞、その「様子」と結び付く「効果の根拠（条件２：本文中の言葉）」に＜青線＞を引く。

（一郎さんの最初の記述にクラスメイトが赤線と青線を施したもの）
「きっぱり」は、生徒が先生に向かって何の迷いもなく、自信をもって力強く言い切っている様子を表しています。この言葉を使うことによって、生徒がたくさん練習をしてきて、発表に絶対の自信があるように感じさせる効果があります。


「きっぱり」が表す様子はよく分かるけれど、青線を引いたところは「擬態語の効果」なのかどうか、自信がないな…。


２～５段落は例をたくさん挙げている段落だったよね。でも、３段落だけで「擬態語の効果」って言えるのかな。どちらかというと、青線の部分は「きっぱりの効果」じゃない？


文章をどのように読んだのか、振り返って考えてみましょう。


擬態語の効果は、７段落に「声や口調、態度などの情報を総合して得られるイメージを、短い言葉で端的に示してくれる」とまとめられていたよね。


６段落には「包括的に含んだイメージ」という表現でまとめられている記述もあるね。

そのつもりで、３段落の「思い切って〈きっぱり〉〈ずばり〉と言い切ったりすることもある」のところを根拠にして書いたんだけど…。


そっか。言われてみれば、「擬態語の効果」というより、「きっぱりの効果」かもしれないな。
一郎

ポイント①
★互いの**考えの根拠が条件に示されているとおり、本文の叙述に基づいているか**を確かめ合う。

ポイント②
★自分の考えと**文章から理解したことを結び付け**、考えを確かなものにしていく。

第４時　交流での気付きを基に、より説得力のある記述へと書き直す。

（一郎さんの最終的な記述例）
「きっぱり」は、生徒が先生に向かって何の迷いもなく、自信をもって力強く言い切っている様子を表しています。このように、擬態語には声の大きさや話し方などの情報を総合した包括的なイメージを、短い言葉で端的に表現する効果があります。

2 教科に関する調査結果（３）（小学校算数）

結果概要

○令和６年度から２年連続で４ポイントあった全国の平均正答率との差が２ポイント縮まり、改善傾向が見られる。

●**「知識の概念的な理解」**に関わる問題について、大問１（３）**「体積の意味」**及び大問２（３）**「単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味」**の問題の正答率はそれぞれ33.8%（全国比－6.3ポイント）、33.5%（全国比－2.6ポイント）であり、課題が継続している。

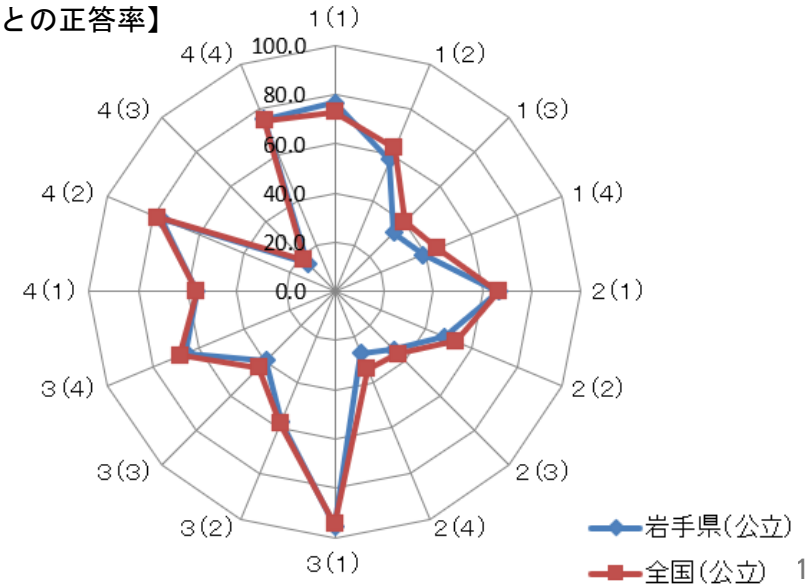
●学力向上**iACT-R8**で取り上げた**「割合」**について、大問２（４）**「基準量・比較量・割合の関係」**問題の正答率は27.1%（全国比－7.1ポイント）であった。量と割合の違いを捉えることや、小数倍の意味の理解に課題が見られる。

●記述式の問題形式の平均正答率は44.8%（全国比－3.7ポイント）であり、課題が継続している。連携協定による東京学芸大学の分析によると、ただ単に**「詳しく長く書く」**指導や**「無解答にしない」**指導ではなく、**見取りに基づいて支援を区別する**ことが重要である。**児童が「何ができるようになればよいか」を小問レベルで具体的に想定し、「数学的な考えを、数学的な言葉で説明すること」**ができるようにするための指導の改善が必要である。

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）（ ）は全国
学習指導要領の領域	数と計算	8	58.3(61.1)
	図形	4	51.7(55.3)
	測定	1	76.4(78.1)
	変化と関係	3	36.3(41.1)
	データの活用	4	46.5(48.6)
評価の観点	知識・技能	12	58.0(60.1)
	思考・判断・表現	4	42.0(45.4)
問題形式	選択式	5	53.6(56.0)
	短答式	8	57.7(59.7)
	記述式	3	44.8(48.5)

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
8.6/16問	54％	9問	3.8問	10問

【小問ごとの正答率】

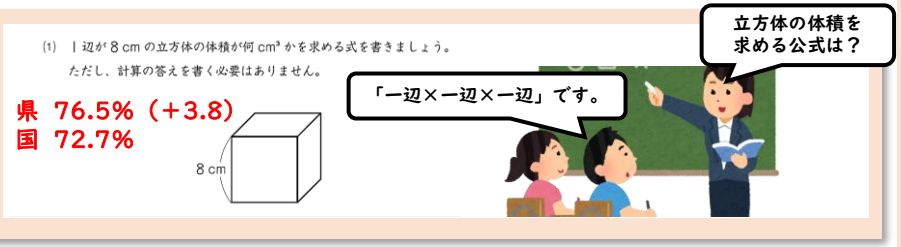


2 教科に関する調査結果（３）（小学校算数）図形

【第５学年】B　図形　(4)立体図形の体積
ア(ア)体積の単位（立方センチメートル（㎤）、立方メートル（㎥））について知ること。

結果のポイント①　体積の意味について理解することに課題がある。

具体的な設問例 大問１（３）　１㎤の立方体を36個使ってできた直方体の体積を書く。



(3)　１cm³の立方体が36個あります。36個をすべて使って、高さが４cmの直方体を１つ作りました。
その直方体の体積は何cm³ですか。
答えを書きましょう。

県　33.8%（−6.3）
国　40.1%

解答の分析

正答 [正答率33.8%]	36
誤答例	①144　…反応率24.1%（全国20.0%） ②9　…反応率17.9%（全国14.3%） ③4　…反応率1.8%（全国1.4%） ④36、144、4以外の4の倍数…反応率14.8%（全国15.1%） ⑤上記以外　…反応率4.5%（全国4.9%）

○誤答の解説
・誤答例の①～④の児童は次のような考え方から解答したと考えられる。
①36×４の結果を解答
②36÷４の結果を解答
　問題文に出てきた数字を全て使って解答しようとしている。
③高さの数である4を解答
④36と高さの数である4を使った計算の答えを解答
・体積は単位体積の立方体の幾つ分で表すことの理解に課題があると考えられる。

1（１）と1（３）のクロス集計　※（　）は全国の値　（%）

		1（３） 正答	誤答	無回答	合計
1(１)	正答	30.1 (35.7)	44.4 (35.4)	1.6 (1.9)	76.2 (72.9)
	誤答	3.4 (4.7)	18.5 (19.6)	1.0 (1.5)	22.9 (25.8)
	無回答	0.1 (0.1)	0.3 (0.3)	0.6 (0.8)	0.9 (1.2)
	合計	33.7 (40.4)	63.2 (55.4)	3.2 (4.2)	100.0 (100.0)

クロス集計の分析

（１）で正答できた本県の児童76.2%のうち、（３）で誤答となった児童の割合は44.4%である。この結果から、立方体の体積の計算による求め方について理解している児童の半数以上が、体積の意味について理解できていないと考えられる。また、全国の値と比べてみると、体積の計算による求め方を理解していても、体積の意味を理解していないと思われる児童の割合は全国よりも大きい。

指導改善のポイント

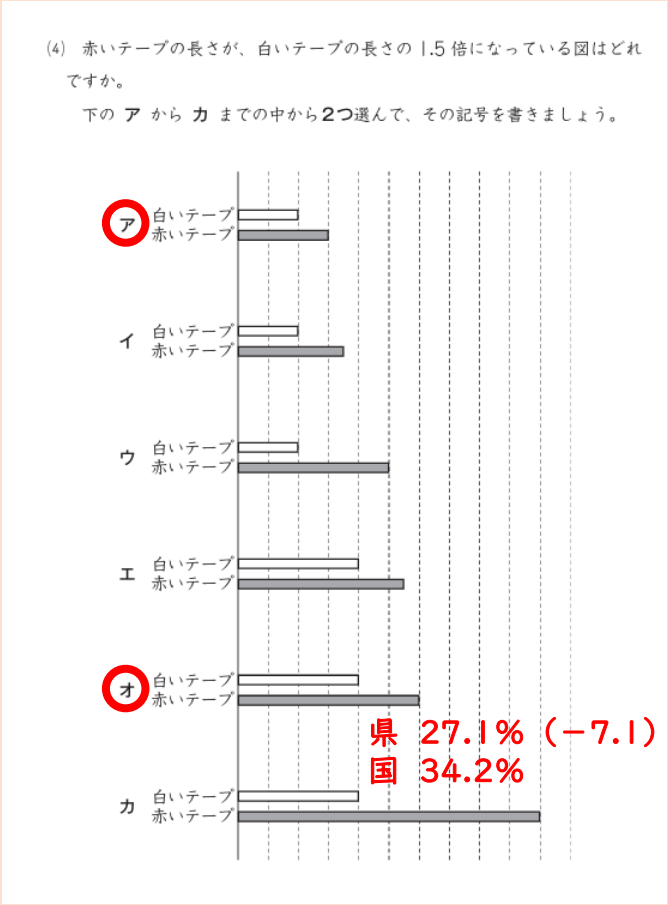
直方体や立方体の体積を求める公式をただ暗記することや、公式に数値を当てはめた計算ドリルを行うことに重点をおいた指導ではなく、**体積も面積などと同じように、単位の大きさを決めるとそのいくつ分として数値化して捉えること**ができることや、同じ個数の１㎤の立方体を用いて作られた立体は、形が違っても体積は同じであることなどを理解できるようにすることが大切である。

2 教科に関する調査結果（３）（小学校算数）数と計算、変化と関係

【第４学年】Ａ　数と計算　(4)小数の仕組みとその計算
ア(ア)ある量の何倍かを表すのに小数を用いることを知ること。
【第５学年】Ｃ　変化と関係　(3)割合
ア(ア)ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係とを比べる場合に割合を用いる場合があることを理解すること。

結果のポイント②　示された基準量と割合から、比較量を捉えることに課題がある。量と割合の違いを捉えることや、小数倍の意味の理解に課題がある。

具体的な設問例 大問２（４）　赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図を二つ選ぶ。



解答の分析

正答 [正答率27.1%]	ア・オ
誤答例	①イ・エ・・・反応率42.2%（全国35.9%） ②ウ・カ・・・反応率10.1%（全国10.2%） ③イ・オまたはウ・オ・・・反応率4.8%（全国4.4%） ④ア・エまたはア・カ・・・反応率3.8%（全国3.5%）

○誤答の解説
・誤答例①及び②の児童は、「差が1.5目盛り分」「差が1.5倍分」のように一貫しており、適当に選択しているわけではないことが伺える。①は、基準量の1.5倍に当たる比較量を、基準量より1.5目盛り分多い量であると誤って捉えており、量と割合の違いを正しく理解していないと考えられる。また、②の児童は、基準量の1.5倍に当たる比較量を、基準量と基準量の1.5倍を合わせた量であると誤って捉えており、もとの長さである「１倍」に当たる長さや「0.5倍」などの小数倍に当たる量の理解が十分ではないと考えられる。

指導改善のポイント

教師が誤答例①及び②の児童の解答が、どのような考えに基づいているものかを捉え、学習評価を指導に生かすことが大切である。指導に当たっては、**整数倍から小数倍のように、段階を踏みながら複数問に取り組む中で、授業の中でつまずきを表出させ、理解がだんだん深まるようにしたい。**教科書を活用した流れの中で調査問題を活用し、基準量や比較量を変えたり割合を変えたりしながら、小数倍の意味及び割合についての概念的な理解が深められるようにすることも考えられる。

2 教科に関する調査結果（３）（小学校算数）数と計算

【第４学年】A　数と計算　(5)同分母の分数の加法、減法
ア(ア) イ(ア)
【第５学年】A　数と計算　(4)分数の意味と表し方
ア(ア) ア(エ) イ(ア)

結果のポイント③　異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述することに課題がある。

具体的な設問例 大問３（３）　$\frac{7}{3}$と$\frac{7}{4}$のどちらが大きいかを判断し、そのわけを書く。

3　たいがさんとひまりさんは、１から９までの数字が書かれた９枚のカードを使って遊びます。

1 2 3 4 5 6 7 8 9

カードを裏返しにして、１人３枚ずつカードを引いて数をつくります。

(3)　たいがさんたちは、【ルール3】で遊ぶことにしました。

【ルール3】
①引いたカード３枚のうち、２枚を□に当てはめて分数をつくります。

$\frac{\square}{\square}$

②大きい数をつくった方が、勝ちです。

たいがさんは、3 4 7 を引きました。



$\frac{7}{3}$と$\frac{7}{4}$では、どちらの方が大きいですか。下の ア から ウ までの中から１つ選んで、その記号を書きましょう。
また、その記号を選んだわけを、数や言葉を使って書きましょう。

ア　$\frac{7}{3}$の方が大きい。
イ　$\frac{7}{4}$の方が大きい。
ウ　$\frac{7}{3}$と$\frac{7}{4}$の大きさは等しい。

県　39.5%（−4.5）
国　44.0%

解答の分析

正答例［正答率 39.5%］	記号アを選び、次のA、B、C、Dについて、いずれかの方法で①、②の全てを書いている。
	A【通分を用いた大小比較】・・・反応率18.9%（全国23.9%） A①　$\frac{7}{3}$と$\frac{28}{12}$が等しいことを表す数や言葉　　A②　$\frac{7}{4}$と$\frac{21}{12}$が等しいことを表す数や言葉 ・$\frac{7}{3}$と$\frac{7}{4}$を通分すると、$\frac{7}{3}$は$\frac{28}{12}$、$\frac{7}{4}$と$\frac{21}{12}$なので、$\frac{7}{3}$の方が大きいです。
	B【分数を小数で表した大小比較】・・・反応率8.9%（全国8.1%） B①　$\frac{7}{3}$と2.33…が等しいことを表す数や言葉　　B②　$\frac{7}{4}$と1.75が等しいことを表す数や言葉 ・$\frac{7}{3}$と$\frac{7}{4}$を小数で表すと、$\frac{7}{3}$は2.33…、$\frac{7}{4}$は1.75なので、$\frac{7}{3}$の方が大きいです。
	C【仮分数を帯分数で表した大小比較】・・・反応率7.8%（全国7.8%） C①　$\frac{7}{3}$と$2\frac{1}{3}$が等しいことを表す数や言葉　　C②　$\frac{7}{4}$と$1\frac{3}{4}$が等しいことを表す数や言葉 ・$\frac{7}{3}$と$\frac{7}{4}$を帯分数で表すと、$\frac{7}{3}$は$2\frac{1}{3}$、$\frac{7}{4}$は$1\frac{3}{4}$なので、$\frac{7}{3}$の方が大きいです。
	D【分子が等しいことに着目した大小比較】・・・反応率3.9%（全国4.3%） D①　$\frac{7}{3}$と$\frac{7}{4}$の分子が等しいことに着目していることを表す数や言葉 D②　$\frac{7}{3}$と$\frac{7}{4}$の分母に着目して、分母が小さい方が数が大きいことを表す数や言葉 ・$\frac{7}{3}$と$\frac{7}{4}$の分子は７で等しいです。$\frac{7}{3}$と$\frac{7}{4}$の分母を比べると$\frac{7}{3}$の分母の方が小さいです。分子が等しいとき、分母が小さい方が数が大きいので、$\frac{7}{3}$の方が大きいです。
誤答例	E　大小判断は正しいが、理由欄は解答類型１～８以外の解答又は無解答・・・反応率13.5%（全国13.2%） ・帯分数にして比べると、$\frac{7}{3}$の方が大きいです。 F　通分、小数化、帯分数化等に着目するが、大小判断は誤っているもの・・・反応率1.9%（全国1.5%） ・$\frac{7}{3}$と$\frac{7}{4}$を通分すると、$\frac{7}{3}$は$\frac{28}{12}$、$\frac{7}{4}$と$\frac{21}{12}$なので、$\frac{7}{4}$の方が大きいです。 G　同分子分数の大小関係を誤って適用しているもの・・・反応率9.2%（全国8.2%） ・$\frac{7}{3}$と$\frac{7}{4}$の分子は７で等しいです。$\frac{7}{3}$と$\frac{7}{4}$の分母を比べると$\frac{7}{4}$の分母の方が大きいです。分子が等しいとき、分母が大きい方が数が大きいので、$\frac{7}{4}$の方が大きいです。

○誤答の解説
・誤答例Eは、大小判断は成立しているが、説明に必要な要素が不足している解答である。数量関係を明示し、それを判断の根拠として対応付けて記述することに課題があると考えられる。
・誤答例Gの児童は、同分子分数の分母に着目しながら、分数の大小関係を誤って解答している。分数を単位分数のいくつ分として捉える意味について理解できていないと考えられる。

指導改善のポイント　～「分数の大きさ」と「判断を理由として表すこと」を分けて支援する～

指導に当たっては、複数問をとおして、児童一人ひとりがAからDの方法で分数の大小を比べることで、分数の意味と表し方について、学びを調整しながら理解を深めることが大切である。東京学芸大学の分析によると、**誤答が分数の意味の理解によるものなのか、説明に必要な要素の不足なのかにより、支援を区別する**必要がある。よって、教師は**「記述式」を一つの課題として捉えるのではなく、児童一人ひとりの誤答の状況を的確に見取り、指導に生かす評価を充実させること**が重要である。

2 教科に関する調査結果（３）（小学校算数）

【第２学年】A　数と計算　(2)加法、減法　ア(ア)
【第３学年】D　データの活用　(1)表と棒グラフ　ア(ア)
【第４学年】B　図形　(2)立方体、直方体などの立体図形　ア(ア)

●問題の文脈を捉え、示された条件をもとに、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述することに課題がある。

→１時間の授業の中で、複数問をとおして児童が自分の学びを調整できるように、「口述」と「記述」を適切に組み合わせる。



小学校算数 大問１（４）

図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題

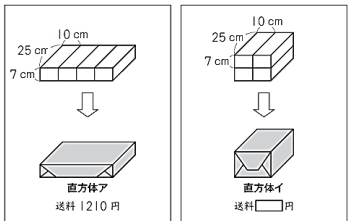
(4) はやとさんは、図2のような直方体の箱に入ったおかしを宅配便で送ろうとしています。



図2

※問題は一部省略

はやとさんは、図2のおかし４箱をまとめて紙で包み、１つの直方体の荷物にして送ります。まとめ方によって送料にちがいがあるかを調べるために、下の２つのまとめ方でできる**直方体ア**と**直方体イ**の送料を求めることにしました。



直方体アの送料は１210円です。
直方体イの送料は何円ですか。
直方体イの送料の求め方を
・３辺のそれぞれの長さ（縦の長さ、横の長さ、高さ）
・３辺の長さの合計
がわかるようにして、数や言葉を使って書きましょう。
また、送料が何円になるのかも書きましょう。
ただし、紙の厚さは考えないものとします。

正答例	次のA、Bの全てを書き、送料を920円と書いている。 …正答率38.6%（全国45.2%） A　直方体イの３辺のそれぞれの長さを表す数や言葉 B　直方体イの３辺の長さの合計を表す数や言葉 ・３辺の長さの合計は、25＋20＋14＝59で、59cmなので、送料は920円です。
誤答例	①図２の１箱の３辺又はその合計等を用い、送料は920円以外の解答 …反応率16.6%(全国13.6%) ・３辺の長さの合計は、（25＋10＋７）×４で＝168で、168cmなので、送料は1510円です。 ②図２の１箱の３辺(25cm、10cm、７cm)等を用い、送料は920円と解答 …反応率7.6%(全国7.6%) ・３辺の長さの合計は、25＋10＋７＝42で、42cmなので、送料は920円です。

指導改善のポイント

～操作後の立体を新たな対象として捉え、数量をつなぐ～

指導に当たっては、児童一人ひとりが４つの箱のまとめ方を考え、送料を求める活動を行うことが大切である。これにより、箱のまとめ方は複数あることや、まとめ方によって送料が異なることに気付き、「できるだけ送料のかからないまとめ方を考える」という、問題の文脈を捉えることができるようになる。東京学芸大学の分析によると、**支援の中心となるのは、４箱を組み合わせてできた直方体を新たな考察対象として捉え、その直方体を構成する３辺を見いだすこと**である。ここでは、児童が協働的な学びをとおし、解決の過程を振り返り、学びを調整することができるようにしたい。教師の支援としては、**「自分の考えを、自分の言葉で」から、「数学的な考えを、数学的な言葉で説明する」ことができるように**することである。そのために、**「口述」と「記述」を適切に組み合わせ、複数問を通しながら、調整した学びの結果が最終的にノート等に残るように指導を行っていくこと**が大切である。

授業実践アイディア例



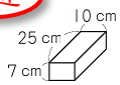
下の直方体の形をしたおかしの箱の送料は、いくらになりますか。

３辺の長さの合計を求める式

（縦の長さ）＋（横の長さ）＋（高さ）

３辺の長さの合計	送料
60 cm 以下	920 円
60 cm より大きく 80 cm 以下	1210 円
80 cm より大きく 100 cm 以下	1510 円

記述



３辺の長さの合計は、25＋10＋７＝42で、42cmだから、送料は920円です。





おかしを４箱送ります。送料はいくらになりますか。

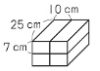


よし子

４箱だから、25＋10＋７の42に４をかけて168cm。送料は1510円でいいのかな…。

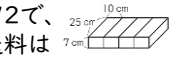
１箱のときの3辺の長さの合計に４をかけると、３つの辺すべての長さが４倍になってしまうよ。

３辺の長さの合計は、25＋20＋14＝59で、59cmだから、直方体の送料は920円になったよ。



口述

３辺の長さの合計は、25＋40＋７＝72で、72cmだから、送料は1210円かな。





同じ４箱でもまとめ方がちがうと送料が変わるんだね。



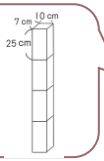
他にも安く送れる方法がないか探してみたいな。

３辺の長さの合計は、25＋10＋28＝63で、63cmだから、送料は1210円だ。





これならどうだろう。３辺の長さは、７cm、10cm、100cm。…もうこの時点で920円より安くはならなそうだ。



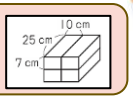


よし子さんのまとめ方なら１箱と同じ送料で送れるね。





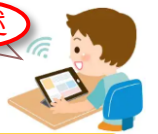
それでは、送料が920円になるまとめ方にしたときの説明を、ロイロノートに書いて、提出しましょう。



口述と記述を適切に組み合わせ、学びを調整した結果がノート等に残るようにすることが大切です。

記述

３辺の長さの合計は、25＋20＋14＝59で、59cmです。だから送料は920円になります。



Point！

児童が問題の文脈を捉え、問題解決の目的を明確にもつことは、自ら学びを調整したり、新たな問いを見いだしたりすることにつながります。

2 教科に関する調査結果（４）（中学校数学）

結果概要

○令和５年度から３年連続で全国の平均正答率との差がー５ポイントであったが、１ポイント縮まり、やや改善の傾向が見られる。特に**「数と式」**領域の平均正答率が65.2%（全国比ー2.6ポイント）で、差が昨年度より３ポイント以上縮まり、各学校でつまずきを生かした授業改善が進んでいる成果の一つと考えられる。

●**「図形」**領域について、大問３**「２直線が平行になるための条件の理解」**に関わる問題の正答率は42.3%で、平行線や角の性質についての概念的な理解に課題が見られた。

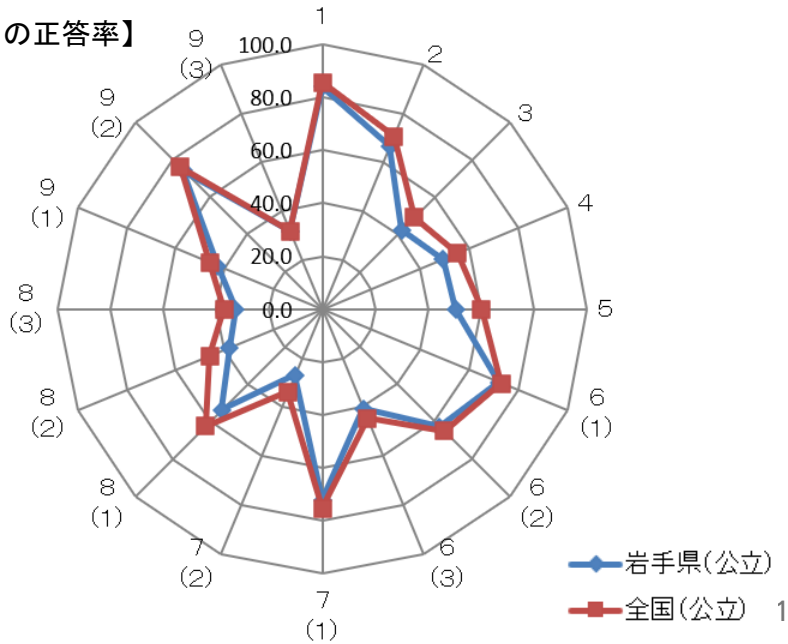
●**「データの活用」**の大問５**「簡単な場合の確率」**の問題の正答率は50.3%であり、全国の平均正答率を9.9ポイント下回った。年間指導計画に基づいた十分な授業時数の確保、学習評価の充実等、カリキュラム・マネジメントの面からも注視する必要がある。

●**「図形」**の大問８**「図形の合同」**の証明の記述式問題の正答率は38.0%で、依然として「証明をかく」ことについて課題が継続している。連携協定による東京学芸大学の分析によると、**証明に用いる事柄、根拠、合同の判断、結論を個別に記述するだけでなく、それらを論理的に接続して表現すること**が重要である。指導に当たっては、表現不十分を許容しつつ、**「証明の方針を立てる」**ことの方を大切にし、仮定と結論を双方向で行き来しながら証明として接続できる筋道を見いだす活動を重視する必要がある。

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）（ ）は全国
学習指導要領の領域	数と式	5	65.2(67.8)
	図形	4	41.7(48.7)
	関数	3	49.5(54.8)
	データの活用	4	49.8(53.5)
評価の観点	知識・技能	12	58.6(63.0)
	思考・判断・表現	4	34.4(39.1)
問題形式	選択式	3	56.5(59.3)
	短答式	9	59.3(64.2)
	記述式	4	34.4(39.1)

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
8.4/16問	53%	8問	4.4問	4問

【小問ごとの正答率】

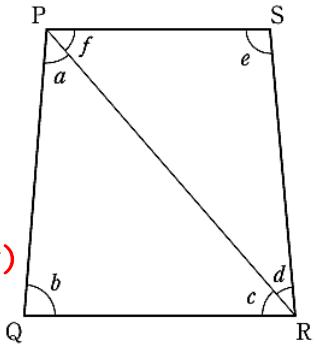


2 教科に関する調査結果（４）（中学校数学）図形

【第２学年】Ｂ　図形　(1)基本的な平面図形の性質
ア(ア)平行線や角の性質を理解すること。

結果のポイント①	２直線が平行になるための条件の理解に課題がある。
具体的な設問例 大問３	四角形ＰＱＲＳにおいて、ＰＳ∥ＱＲを示すための根拠となる二つの角を書く。

3　下の図は、四角形PQRSに対角線PRをひいたものです。



県　42.3%（−6.8）
国　49.1%

上の図において、∠aから∠fまでの６つの角のうち、ある２つの角の大きさが等しければ、ＰＳ∥ＱＲであるといえます。その２つの角を書きなさい。

解答の分析

正答 [正答率42.3%]	∠ｃと∠ｆ
誤答例	①∠ｂと∠ｅ…反応率27.2%（全国24.4%） ②∠ａと∠ｄ…反応率3.4%（全国3.1%） ③上記以外の解答…反応率24.0%（全国20.6%） （∠ａと∠ｃ、∠ｄと∠ｆなど）

○誤答の解説
・①は、錯角が等しければ２直線が平行であることと平行四辺形の向かい合う角が等しいことを混同し、四角形において一組の向かい合う角が等しいならば２直線は平行であると捉えている生徒がいると考えられる。
・②は、錯角の位置にある角を捉えているが、平行であることを示すために着目すべき錯角の位置にある角を捉えることができていないと考えられる。

指導改善のポイント

「錯角が等しければ２直線は平行である」ことを根拠に、平行である２直線を判断できるようにすることが大切である。**その際、錯角である∠aと∠dが等しい場合には、ＰＳ∥ＱＲではなくＰＱ∥ＳＲとなることを取り上げることを通して、着目した錯角が、どの２直線に対する錯角であるかを捉えられるようにすることが大切**である。また、平行線になるための条件と平行四辺形になるための条件を混同するなど、それぞれの理解が不十分であることから、向かい合う角である∠bと∠eが等しいとき、ＰＳ∥ＱＲとなると捉える生徒もいることが考えられため、反例を示すなどしてＰＳ∥ＱＲとならないことを捉えられるようにすることが大切である。

2 教科に関する調査結果（４）（中学校数学）データの活用

【第２学年】Ｄ　データの活用　不確定な事象の起こりやすさ
ア(イ)簡単な場合について確率を求めること。

結果のポイント②

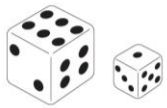
起こり得る場合を樹形図や二次元の表を利用するなどして整理し、確率を求めることに引き続き課題がある。

具体的な設問例 大問５

大小二つのさいころを同時に投げるとき、大きいさいころの目が６で小さいさいころの目が１である確率を求める。

５　大小２つのさいころがあります。この２つのさいころを同時に投げるとき、大きいさいころの目が６であり、小さいさいころの目が１である確率を求めなさい。ただし、どちらのさいころも１から６までの目の出方は、同様に確からしいものとします。

県　50.3%（−9.9）
国　60.2%



関連する過去の問題 H30大問15（２）

大小二つのさいころを同時に投げるとき、和が８になる確率を求める。

（２）下の表は，大小２つのさいころを同時に投げるときの出る目の数の和について，すべての場合を表したものです。例えば，表の右下の12は，大きいさいころの目が６で小さいさいころの目が６のときの和を表しています。

県　62.6%（−8.7）
国　71.3%

小＼大	1	2	3	4	5	6
1	2	3	4	5	6	7
2	3	4	5	6	7	8
3	4	5	6	7	8	9
4	5	6	7	8	9	10
5	6	7	8	9	10	11
6	7	8	9	10	11	12

大小２つのさいころを同時に投げるとき，出る目の数の和が８になる確率を求めなさい。ただし，どちらのさいころも１から６までの目の出方は，同様に確からしいものとします。

類型以外の解答（$\frac{5}{12}$など）
県15.5% 国12.3%
無答率
県14.4% 国 9.7%

二次元の表の見方に課題があり、起こり得るすべての場合の数とその事柄が起こり得る場合の数を正しく数え上げることができていないことが考えられる。

解答の分析

正答 [正答率50.3%]	$\frac{1}{36}$
誤答例	①$\frac{1}{6}$…17.1%(全国11.1%)　②$\frac{1}{12}$…7.8%(全国5.6%)

○誤答の解説
①は次の(ア)又は(イ)のように考え、確率を求めていると考えられる。
(ア)目の出方が全部で12通りと考え、そのうち大きいさいころの目が６、小さいさいころの目が１となる場合を２通りと考え、確率を求めている。
(イ)目の出方が全部で６通りと考え、そのうち大きいさいころの目が６、小さいさいころの目が１となる場合を１通りと考え、確率を求めている。
②は、一つのさいころの目の出方は６通りであることから、大小二つのさいころを同時に投げたときの目の出方は全部で６×２の12通りであると捉え、確率を求めていると考えられる。

指導上の留意点

確率を学習する単元が年度末に位置付けられ、指導や学習内容の定着に必要な時間を十分に確保することが難しい状況も考えられる。単元の実施時期や指導時間を確認するとともに、年間指導計画を見通し、授業時数を計画的に確保することが重要である。

指導改善のポイント

大小二つのさいころを投げたときの目の出方について、**樹形図や二次元の表などを利用して、起こり得る全ての場合を落ちや重なりがないように数え上げる場面を設定すること**が考えられる。また、H30の課題を踏まえ、樹形図や二次元の表の見方を再確認する機会を設けるとともに、二つのさいころに大小の違いが無い場合でも、二つのさいころは区別して起こり得る場合を数え上げることの必要性を理解できるようにすることが大切である。

2 教科に関する調査結果（４）（中学校数学）

【第２学年】Ｂ　図形　(2)図形の合同
イ(イ)三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用すること。

●事柄が成り立つことについて、方針を立て、証明することに課題がある。

→結論を導くために必要な事柄を結論から逆向きに考えたり、仮定や仮定から導かれる事柄を明らかにしたりして、それらを結びつけるには、あと何がいえればよいかと試行錯誤して探る活動を通して、証明の方針を立てることができるようにする。



中学校数学 大問８（２）

ＡＢ＝ＡＰ、ＯＢ＝ＯＰならば∠ＡＯＢ＝∠ＡＯＰであることを、三角形の合同を基にして証明することができるかどうかみる問題

（２）前ページの手順で作図した∠POBが∠XOYの２倍の大きさであること、つまり∠AOB＝∠AOPであることを証明します。図１は、手順の㋔の図の点Aと点B、点Aと点Pを結んだ図です。図１において、AB＝AP、OB＝OPは手順から直接わかることです。これらを仮定とし、次のことがらを証明します。

図１

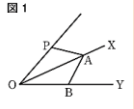


図１において、
AB＝AP、OB＝OP ならば ∠AOB＝∠AOP である。

上のことがらが成り立つことは、△AOB≡△AOPを示すことで証明できます。下の証明を完成しなさい。

証明

△AOBと△AOPにおいて、

合同な図形の対応する角は等しいから、
∠AOB＝∠AOP

指導改善のポイント
～証明を書く前に、
証明の方針を立てる・証明を読む～

生徒質問調査(67)**「文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができる」**の項目は、数学だけでなく、国語や英語のスコアとも相関が大きいことが分かっている。東京学芸大学の分析によると、**支援の中心となるのは、証明に用いる事柄、根拠、合同の判断、結論を個別に記述するだけでなく、それらを論理的に接続して表現すること**である。このことからも、厳密な証明を急がず、表現の不十分さを許容しながら、まずは**「証明の方針を立てる」**ことを重視し、その後は**「証明を読む」**という順で、かかれていることを理解できるようにして、徐々に**「証明を書く」**活動に移ることが考えられます。

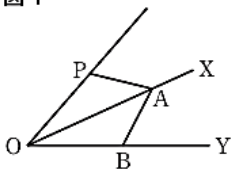
正答	次の(a)、(b)、(c)、(d)とそれぞれの根拠を記述し、証明しているもの…正答率38.0%（全国46.1%） (a)ＡＢ＝ＡＰ　(b)ＯＢ＝ＯＰ　(c)ＯＡ＝ＯＡ 又は ＯＡ共通 (d) △ＡＯＢ≡△ＡＯＰ 【正答例】　仮定より、ＡＢ＝ＡＰ　……① ＯＢ＝ＯＰ　……② 共通な辺だから、 ＯＡ＝ＯＡ　……③ ①、②、③より、３組の辺がそれぞれ等しいから、 △ＡＯＢ≡△ＡＯＰ
誤答例	①(a)、(b)について記述しているもの…8.5%(全国6.6%) ②仮定として、∠ＡＯＢ＝∠ＡＯＰを用いているもの…6.6%(全国7.0%) ③(a)、(b)、(d)について記述しているもの…6.0%(全国4.9%) ④(a)、(b)、(c)について記述しているもの…4.5%(全国4.8%) ⑤無解答…27.0%（全国22.2%）

授業実践アイディア例


図Ⅰで、結論∠AOB＝∠AOPを示すには、何がいえればよいですか？


△AOB≡△AOPがいえれば、**合同な図形の対応する角は等しい**から、結論を示すことができそう。

図１




じゃあ、三角形の合同条件のどれが使えるか調べればよいね。


仮定のAB＝AP，OB=OPが使えるから、**「２組の辺とその間の角がそれぞれ等しい」**はどう？

＜辺＞
- ○ AB＝AP（仮定）
- ○ OB＝OP（仮定）
- ○ **OA＝OA（共通）**


でも、**この手順からだと、∠ABO＝∠APOといえる根拠がない**ね。

＜角＞
- ✕ ∠AOB＝∠AOP（結論）
- ✕ ∠ABO＝∠APO
- ✕ ∠BAO＝∠PAO

作図の**手順**からは分からない


そうだね。じゃあ、三角形の合同条件が**「３組の辺がそれぞれ等しい」**なら？


なるほど！ **OAは共通**だから、それならいけそうだ。


みんなで立てた証明の方針を整理してみましょう。

Point！

≪証明の方針≫
Ⅰ　結論**∠AOB=∠AOP**を示すには、**△AOB≡△AOP**がいえればよい。
Ⅱ　仮定**AB=AP，OB=OP**が使えるから、あとⅠつで三角形の合同条件が使える。
Ⅲ　その間の角**∠ABO＝∠APO**は根拠がなくて使えないから、**OAは共通**のほうを使って、**「3組の辺がそれぞれ等しい」**で証明すればよい。

結論を導くために必要な事柄を結論から逆向きに考えたり、仮定や仮定から導かれることを明らかにしたりして、それらを結びつけるためには、あと何がいえればよいかと試行錯誤して探り、まずは「証明の方針を立てること」に取り組みましょう。

2 教科に関する調査結果（５）（中学校英語）

結果概要

○**「話すこと［発表］」の**大問17は、正答率50.5％（参考値※以下同様）で全国平均を2.5ポイント上回った。自分の好きな人物を1人取り上げ、好きな理由を話すことに成果が見られた。また、**「聞くこと」**は58.1％（全国比－4.6ポイント）、**「読むこと」**は55.1％（全国比－4.9ポイント）であり、令和5年度と比べ、両領域とも全国平均との差が縮小した。

●**「書くこと」**は33.3％（全国比－9.8ポイント）であり、引き続き大きな課題が見られる。特に、留学生の昨日の出来事について、与えられた情報を基に英文を書く大問11①・②では、正答率がそれぞれ39.2％、39.1％で、全国平均を19.7ポイント、13.6ポイント下回った。時間、人物、行動に関する情報を関連付け、場面に合う文法形式と文構造を用いて正確に書く力の育成が必要である。

●**「聞くこと」「読むこと」**では、必要な情報を捉える問題に比べ、話や文章の概要・要点を捉えることに課題が見られる。また、**「話すこと」**では、大問17で成果が見られた一方、大問15のように即興でやり取りすることや、大問16・18のように自分の考えとその理由を整理して、まとまりのある内容を話すことに課題が見られる。

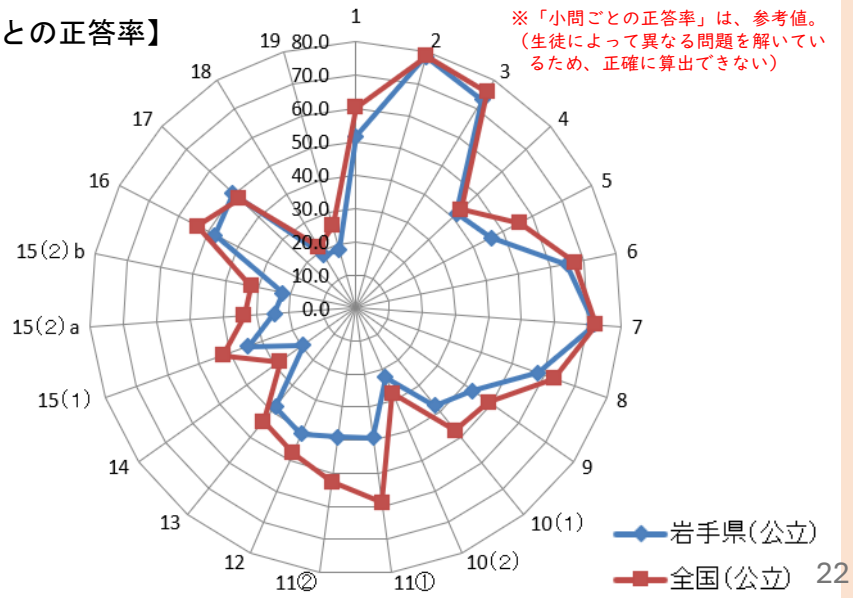
分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（％）（　）は全国
学習指導要領の内容	聞くこと	5	※58.1(62.8)
	読むこと	5	※55.1(60.0)
	話すこと[やり取り]	3	※27.1(36.0)
	話すこと[発表]	4	※33.8(37.2)
	書くこと	6	※33.3(43.1)
評価の観点	知識・技能	7	※39.4(49.6)
	思考・判断・表現	16	※44.1(48.9)
問題形式	選択式	10	※56.6(61.4)
	短答式／口述式	5	※31.9(43.9)
	記述式／口述式	8	※32.0(37.0)

※平均正答率は参考値。（生徒によって異なる問題を解いているため、正確に算出できない）

平均IRTスコア	標準偏差	パーセンタイル値		
		25％	50％	75％
467	100.1	398	459	532

【小問ごとの正答率】

※「小問ごとの正答率」は、参考値。（生徒によって異なる問題を解いているため、正確に算出できない）



2 教科に関する調査結果（５）（中学校英語） 読むこと

〔思考力、判断力、表現力等〕
ウ　社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。

結果のポイント①

社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉えることに引き続き課題がある。

具体的な設問例 大問10（１）

中学生のまいこが英語の授業で書いたインターネットの使用に関する文章を読み、まいこが最も伝えたいことを選択肢から選ぶ。

（１）【まいこが書いた文章】を読み、まいこが最も伝えたいことを、＜解答欄＞の１から４までの中から１つ選びなさい。

【まいこが書いた文章】

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.

Do you think my opinion is good?

まいこの文章の構成
①主題
②筆者の主張
③理由（具体例）①
④理由（具体例）②
⑤読者への問いかけ

県　37.7%（−9.8）
国　47.5%

＜解答欄＞

○ 1　Many junior high school students use the internet to play games.
○ 2　Junior high school students should use the internet for learning more often.
○ 3　There are many good videos for learning English.
○ 4　We can find the meaning of an English word quickly.

1　Many junior high school students use the internet to play games.　→１行目（主題提示）
2　Junior high school students should use the internet for learning more often.　→2行目（筆者の主張）
3　There are many good videos for learning English.　→3行目～（理由・具体例①）
4　We can find the meaning of an English word quickly.　→6行目（理由・具体例②）

解答の分析

正答［正答率　37.7%］	2
誤答例	１・・・反応率10.1%（全国8.8%） ３・・・反応率23.0%（全国19.4%） ４・・・反応率29.0%（全国24.1%） 無解答・・・0.2%（全国0.2%）

○誤答の解説
書き手が伝えたいことを表す表現 “I think …” や “we should …” などから正しく判断することができていない状況にある。３と解答している生徒は具体例を表す“For example,”以下の内容に着目し、伝えたいことと誤った判断をした可能性が考えられる。また、４と解答した生徒は“We can find…”の表現、あるいは、文章全体の最後に大事なことは文章の最後に書かれていると誤って捉えた可能性が考えられる。

指導改善のポイント

短い文章を読み、要点を捉えることができるようにするためには、書き手が最も伝えたい内容や考えに着目させるとともに、それを支える理由や具体例などとの関係を捉えさせることが大切である。

また、一部の語句や文のみに着目するのではなく、文章全体を通して読み、文と文とのつながりや段落内の情報相互の関係を整理しながら理解させることが重要である。そのため、**文章全体の構成や情報の展開を捉えさせる活動を授業に取り入れ、要点を読み取る力の育成を図る**必要がある。

例えば、大問10では、“I think we should ～”が書き手の最も伝えたい内容や考えであり、“For example, ～”以下はその考えを支える理由・根拠として示されている。授業においては、書き手が最も伝えたい内容や考えと、それを支える理由や具体例を区別しながら読む活動を取り入れることが重要である。

2 教科に関する調査結果（５）（中学校英語）話すこと［発表］

〔思考力、判断力、表現力等〕
イ　日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。

結果のポイント②

日常的な話題について、自分の考えとその理由を関連付け、聞き手に伝わるまとまりのある内容を話すことに課題が見られる。

具体的な設問例 大問18

自分のまちを訪れるのにおすすめの季節を一つ取り上げ、その理由を話す。

英語18　まとまりのある内容を話す

<問題文>
あなたは、海外の中学生とお互いのまちについてオンラインで発表し合っています。次はあなたが発表する番です。「あなたのまちを訪れるには、どの季節がよいかを１つ取り上げ」、「なぜその季節がよいのか」を、英語で話しましょう。【考える時間１分　解答時間30秒】



県　18.6%（−2.9）
国　21.5%

1．解答類型と反応率

問題番号			解答類型	反応率(%)	正答
18			（正答の条件） 次の条件を満たして解答している。 条件①　自分のまちを訪れるのによい季節を１つ取り上げて話している。 条件②　条件①の理由を話している。		
		1	条件①、条件②を満たして解答しているもの	17.2	◎
		2	文法事項など※に誤りがあるが、条件①、条件②を満たして解答しているもの	4.3	○
		3	条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	8.9	
		4	条件①を満たし、条件②に関する発話がないもの	1.1	
		5	条件①を満たしていないが、条件②を満たして解答しているもの	21.8	
		6	条件①に関する発話はないが、条件②を満たして解答しているもの	0.4	
		7	条件①、条件②を満たさないで解答しているもの	30.9	
		99	上記以外の解答　（日本語など）	2.0	
		0	無解答	13.5	

※「文法事項など」とは、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを指す

解答の分析

正答 ［正答率18.6%］	自分のまちを訪れるのにおすすめの季節を一つ取り上げ、その理由を聞き手に伝わる英語で話している。
誤答例	解答類型３・・・反応率8.8%（全国8.9%） →おすすめの季節は話しているが、その理由を適切に話すことができていない。 解答類型５・・・反応率21.5%（全国21.8%） →観光や行事、自然などの理由は話しているが、おすすめの季節を明確に話していない。 解答類型７・・・反応率31.8%（全国30.9%） →おすすめの季節とその理由のいずれも、聞き手に伝わる英語で話すことができていない。 無解答・・・15.7%（全国13.5%）

○誤答の解説
本県の正答率は18.6%で、全国を2.9ポイント下回った。地域の行事や自然、食べ物などについて話していても、それがどの季節を勧める理由なのかを明確にできない生徒や、おすすめの季節とその理由を関連付けて、聞き手に伝わる文で話すことができない生徒が多い。

指導改善のポイント

指導に当たっては、「おすすめの季節」と「その季節にできることや楽しめること」を、質問と応答によるやり取りを通して関連付けて話す活動を繰り返す。その後、やり取りで整理した内容を基に、まずは考えと理由を1、2文で発表させ、内容面と言語面からよい表現を共有する。**相手を変えて再度話す活動を行うことで、徐々に具体例や補足情報を加え、聞き手に伝わるまとまりのある発表**につなげたい。

2 教科に関する調査結果（５）（中学校英語）

「書くこと」〔知識及び技能〕
ア　関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。

●音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して書くことに課題が見られる。

→時間の異なる場面と英文を照らして比べ、時間の情報と動詞の形を関連付けることで、場面に合う英文を書くことができるようにする。



中学校英語 大問11

与えられた情報に基づいて、留学生の**昨日の出来事**を説明する英文を書くことができるかをみる問題

英語11　音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して書く

留学生のメイ（Mei）に**昨日の出来事**について質問し、分かったことを下の【表】にまとめました。【表】を見て、例を参考にしながら、**①メイが行った場所**、**②メイがしたこと**を、それぞれ英文１文で書きなさい。

【表】

例	メイが起きた時刻	７時(seven)
①	メイが行った場所	公園(the park)
②	メイがしたこと	テニス(tennis)

<解答欄>　※半角で入力してください

例　Mei got up at seven.
①
②

正答例	①正答率39.2%（全国58.9%） （例）・Mei went to the park.・Mei went to in the park. ②正答率39.1%（全国52.7%） （例）・Mei played tennis.・she played tennis.
誤答例	①反応率30.6%（全国19.0%） （例）・Mei go to the park. ②反応率21.0%（全国14.9%） （例）・Mei will play tennis.

指導改善のポイント

「go、playの過去形は？」に「went、played」と答えられても、場面に応じて適切な動詞の形を選んで書くことに課題がある生徒がいると考えられる。時間、人物、行動などの情報を関連付け、**時間を表す語句と動詞の形を照らし合わせるとともに、「誰が」「何をしたか」を主語と動詞に対応させて英文を組み立て、見直す活動**を取り入れることが大切である。また、動詞の時制を場面や状況等に応じて使い分けることができるようにするために、**新たな表現を学習した際には、既習の様々な表現を振り返って活用する活動**を適宜位置付けて、深い学びの実現を図ることも大切である。

授業実践アイディア例

Look at the three pictures. Write one sentence about Mei for each picture.

【留学生のMeiの**明日の出来事**】



① Mei will get up at seven.　② Mei will go to the park.
③ Mei will play tennis.

Very good! Now, how about these situations?

【留学生のMeiの**昨日の出来事**】

① Mei get up at seven.
② Mei go to the park.
③ Mei play tennis.

① Mei got up at seven.
② Mei went to the park.
③ Mei played tennis.

Oh, I see! 昨日のことだから、過去形だね。

【留学生のMeiの**毎週土曜日の出来事**】

① Mei get up at seven.
② Mei go to the park.
③ Mei play tennis.

現在形だよね。
でも主語がMeiだから……。

そうか！Meiだから、gets, goes, playsだ！

教師が答えを先に示すのではなく、既習の表現を比べる中で、生徒自身が違いや共通点に気付き、場面に合う英文を書けるようにしましょう。

3 質問調査結果（児童生徒、学校）（１）

※数値は「よく行った」「どちらかといえば行った」等、肯定的な回答の割合（%）
（　　）内の数値は、「よく行った」等、積極的な肯定回答の割合（%）



●いわて県民計画(2019～2028)の「いわて幸福関連指標」に関する項目について

※□は同一集団の経年比較を表す
県R7＝令和7年度　県学調の結果（整数値）
岩手R8＝令和8年度　全国学調（岩手県）の結果

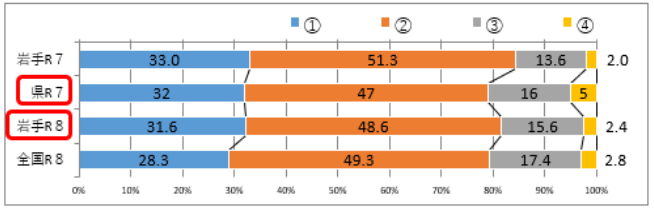
意欲を持って自ら進んで学ぼうとする児童生徒の割合

児童(39)，生徒(39)　５年生まで（１、２年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

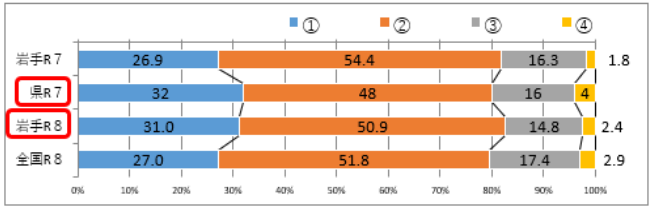
小学校			中学校		
R8目標値	岩手県	全国比	R8目標値	岩手県	全国比
82.5	80.2 (31.6)	+2.6 (+3.3)	85.4	81.9 (31.0)	+3.1 (+4)

①当てはまる　②どちらかといえば、当てはまる　③どちらかといえば、当てはまらない　④当てはまらない

児童



生徒



昨年度に引き続き、全国平均は上回ったものの、R8目標値は下回った。同一集団において、県学調実施時と比較し、小学校も中学校も肯定回答が増加しており、意欲の向上が伺える。引き続き、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組んでいく。

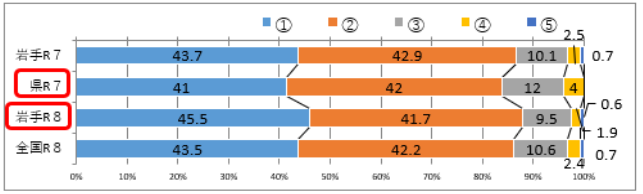
授業で、自分の考えを深めたり広げたりしている児童生徒の割合

児童(42)，生徒(42)　学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

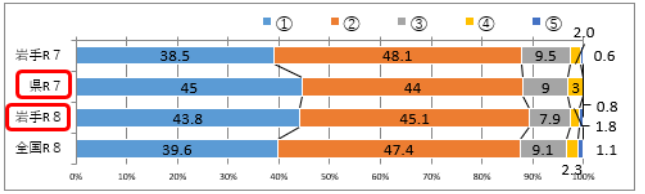
小学校			中学校		
R8目標値	岩手県	全国比	R8目標値	岩手県	全国比
83.0	87.2 (45.5)	+1.5 (+2.0)	83.5	88.9 (43.8)	+1.9 (+4.2)

①当てはまる　②どちらかといえば、当てはまる　③どちらかといえば、当てはまらない　④当てはまらない
⑤学級の友達との間で話し合う活動を行っていない

児童



生徒



昨年度に引き続き、小学校、中学校ともにR8（計画）目標値を大きく上回った。本質問項目に対する本県の児童生徒の積極肯定回答および肯定回答の割合は、全国平均と比べて大きい傾向が見られる。この結果を「深い学び」の実現につなげていくことが重要である。

3 質問調査結果（児童生徒、学校）（２）

※数値は「よく行った」「どちらかといえば行った」等、肯定的な回答の割合（%）
（　　）内の数値は、「よく行った」等、積極的な肯定回答の割合（%）



●いわて県民計画(2019～2028)の「いわて幸福関連指標」に関する項目について

※□は同一集団の経年比較を表す
県R7＝令和7年度　県学調の結果（整数値）
岩手R8＝令和8年度　全国学調（岩手県）の結果

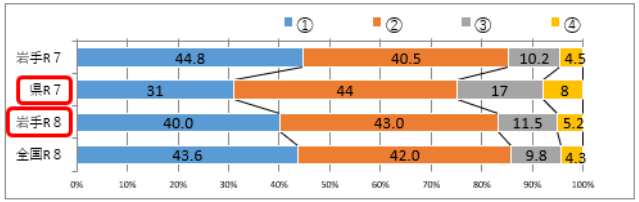
自己肯定感をもつ児童生徒の割合

児童(8)，生徒(8)　自分には、よいところがあると思いますか。

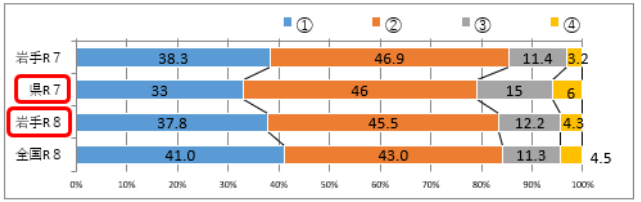
小学校			中学校		
R8目標値	岩手県	全国比	R8目標値	岩手県	全国比
80.0	83.0 (40.0)	-2.6 (-3.6)	79.0	83.3 (37.8)	-0.7 (-3.2)

①当てはまる　②どちらかといえば、当てはまる　③どちらかといえば、当てはまらない　④当てはまらない

児童



生徒



昨年度に引き続き、小学校、中学校ともにR8（計画）目標値を上回った。同一集団における積極肯定回答の割合の増加も見られ、成果が感じられる一方、全国平均を下回っていることについては、慎重に原因を見極めながら、今後の経過を注視していく必要がある。

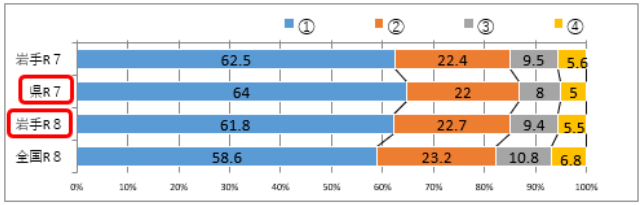
将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合

児童(10)，生徒(10)　将来の夢や目標を持っていますか。

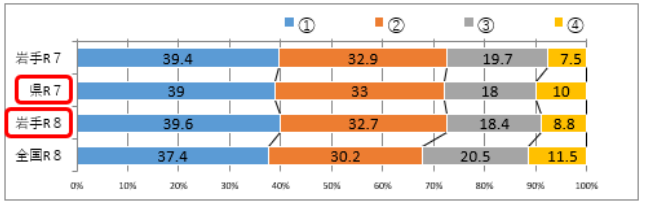
小学校			中学校		
R8目標値	岩手県	全国比	R8目標値	岩手県	全国比
84.0	84.5 (61.8)	+2.7 (+3.2)	76.0	72.3 (39.6)	+4.7 (+2.2)

①当てはまる　②どちらかといえば、当てはまる　③どちらかといえば、当てはまらない　④当てはまらない

児童



生徒



小学校は、R8目標値を0.5ポイント上回ったが、中学校では昨年度に引き続き、目標値を下回った。小学校、中学校ともに全国平均を上回っており、キャリア教育を柱として将来の夢や目標の醸成を図ってきた成果が伺えるが、引き続き取組を継続していく必要がある。

3 質問調査結果（児童生徒、学校）（３）

中学校英語はCBTで実施し、英語３技能のIRTスコアにより結果を表示している。
□内の数値は相関係数。



●平均正答率・IRTスコアと質問事項等のクロス集計

（１）学習や生活に関わることについて①

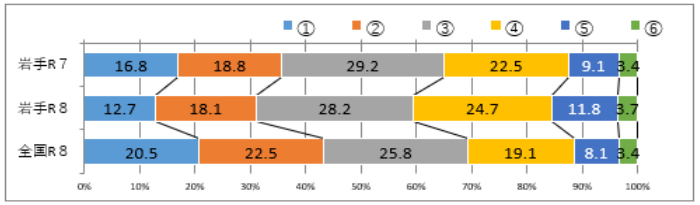
ポイント

・中学校においては、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用した生徒（①または②と回答）の割合が全国平均を上回った。クロス集計結果から、授業におけるICT活用の頻度が多い生徒は、特に中学校英語の平均スコアが高い傾向が見られる。端末活用のステップについては、児童生徒主導の活用を進め、まずは一日一回程度の活用から日常化を図ることが大切である。
・ICTを活用する自信がある児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。総合的な学習の時間において、ICT機器を使って情報を収集・整理したり、発表したりできていると感じている児童生徒は、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。

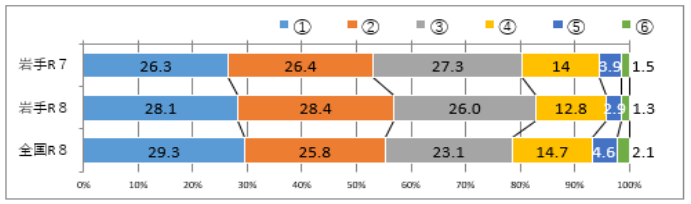
児童(35)
生徒(35)

５年生まで（１、２年生のとき）に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

児童



生徒

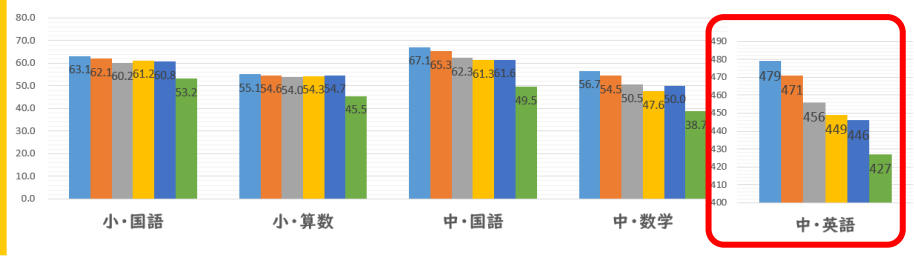


①ほぼ毎日（１日に複数の授業で使用）
②ほぼ毎日（１日に１回くらいの授業）
③週３回以上
④週１回以上
⑤月１回以上
⑥月１回未満

[ICT活用]
×
[正答率・スコア]

クロス集計

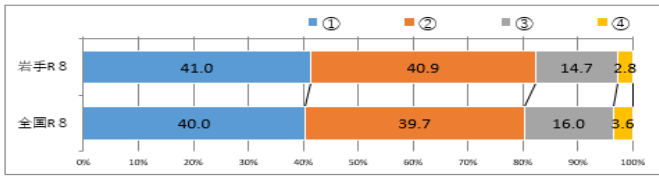
選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



児童(48)
生徒(48)

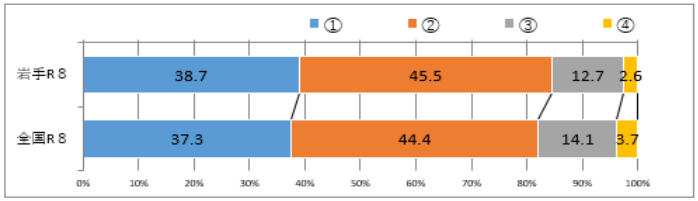
総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどのICT機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできている

児童



①当てはまる
②どちらかといえば、当てはまる
③どちらかといえば、当てはまらない
④当てはまらない

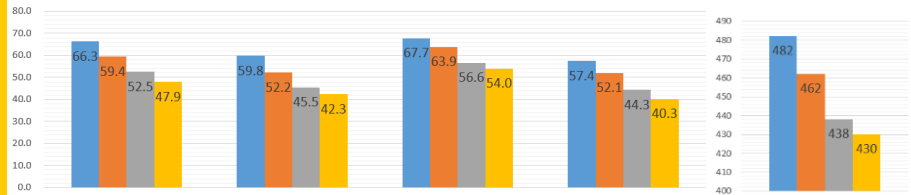
生徒



[ICT活用]
×
[正答率・スコア]

クロス集計

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



小・国語	小・算数	中・国語	中・数学	中・英語
0.23	0.22	0.16	0.16	0.13

3 質問調査結果（児童生徒、学校）（４）

中学校英語はCBTで実施し、英語３技能のIRTスコアにより結果を表示している。



●平均正答率・IRTスコアと質問事項等のクロス集計

（２）学習や生活に関わることについて②

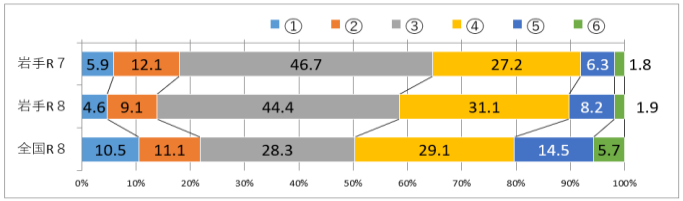
ポイント

・平日の学習時間は、小学校及び中学校国語、数学では「１時間以上、２時間未満」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高く、中学校英語では、「２時間以上、３時間未満」と回答した生徒の平均スコアが最も高かった。このことから、英語に関しては、平日においてもある程度まとまった時間の学習時間が必要であることが伺える。
・土日の学習時間は、小学校では平日と同様に、「１時間以上、２時間未満」と回答した児童の平均正答率が最も高いが、中学校数学と英語では、「３時間以上、４時間未満」と回答した生徒の平均正答率・スコアが最も高かった。

児童(23)
生徒(23)

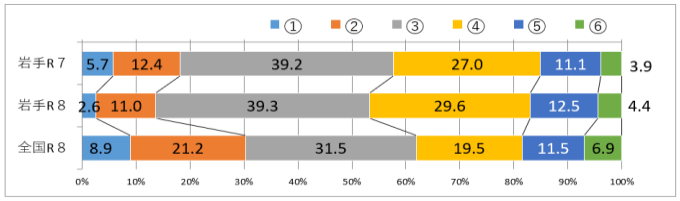
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

児童



①３時間以上
②２時間以上、３時間未満
③１時間以上、２時間未満
④30分以上、１時間未満
⑤30分未満
⑥全くしない

生徒

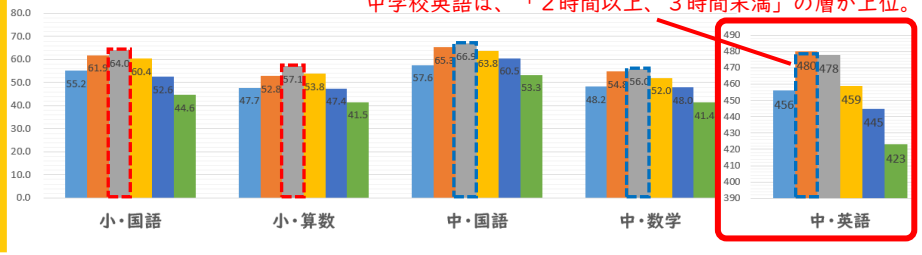


[平日の学習時間]
×
[正答率・スコア]

クロス集計

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

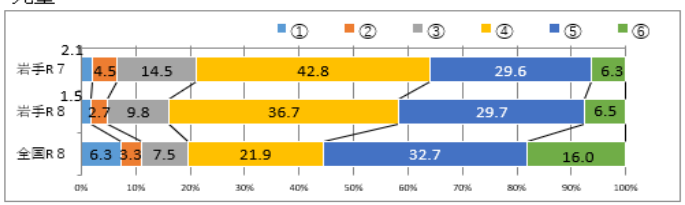
小学校は、「１時間以上、２時間未満」の層が上位。
中学校英語は、「２時間以上、３時間未満」の層が上位。



児童(25)
生徒(25)

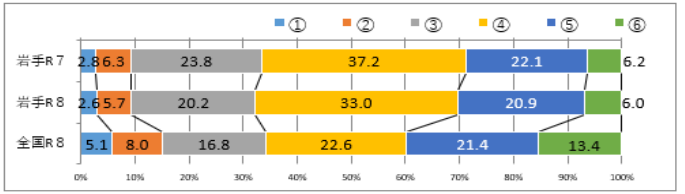
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

児童



①4時間以上
②3時間以上、4時間未満
③2時間以上、3時間未満
④１時間以上、2時間未満
⑤１時間未満
⑥全くしない

生徒　学校の授業時間以外における児童生徒の勉強時間は、全国的に小学校、中学校ともに減少傾向。

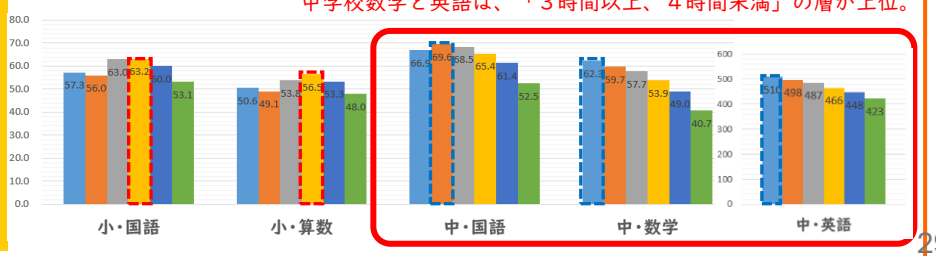


[土日の学習時間]
×
[正答率・スコア]

クロス集計

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

中学校国語は、「２時間以上、３時間未満」の層が上位。
中学校数学と英語は、「３時間以上、４時間未満」の層が上位。



3 質問調査結果（児童生徒、学校）（５）

中学校英語はCBTで実施し、英語３技能のIRTスコアにより結果を表示している。
□内の数値は相関係数。



●平均正答率・IRTスコアと質問事項等のクロス集計

（３）学習や生活に関わることについて③

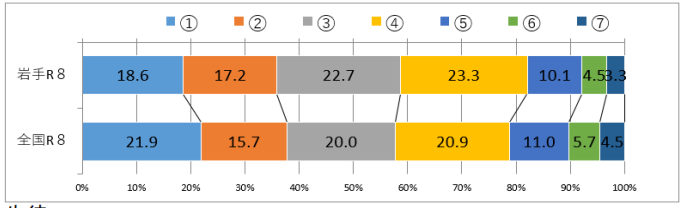
ポイント

・SNSや動画視聴にかける時間が長ければ長いほど、各教科の正答率・スコアは低くなる傾向が見られる。
・家庭生活における時間の使い方やSNSやスマートフォン等の適切な利用の仕方について、保護者と情報共有しながら、児童生徒が適切に身に付けられるようにしていく必要がある。
・小学校においては、学校図書館の利用回数が多い児童は、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。また、小学校、中学校どちらにおいても、家にある本の冊数が多い児童生徒は、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。（社会経済的背景（SES）の代替指標）

**児童(4)
生徒(4)**

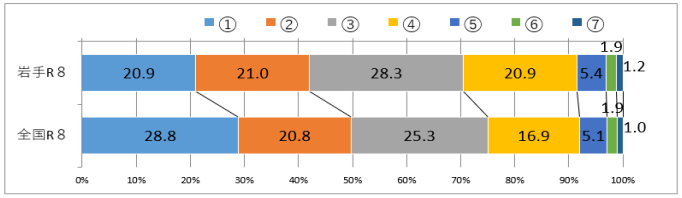
普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）

児童



①4時間以上
②3時間以上、4時間未満
③2時間以上、3時間未満
④1時間以上、2時間未満
⑤30分以上、1時間未満
⑥30分未満
⑦スマートフォン等を持っていない

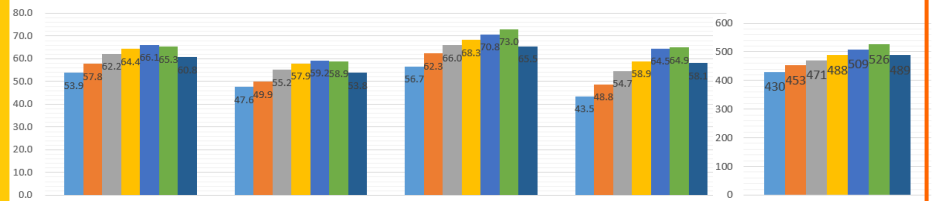
生徒



**[SNS・動画視聴時間]
×
[正答率・スコア]**

クロス集計

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

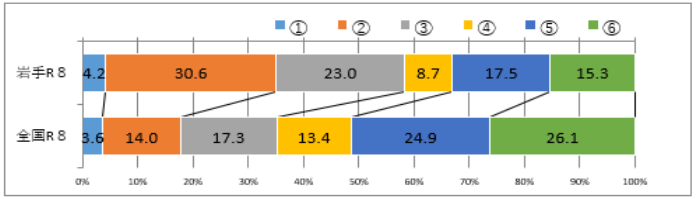


小・国語	小・算数	中・国語	中・数学	中・英語
0.16	0.16	0.19	0.22	0.22

**児童(27)
生徒(27)**

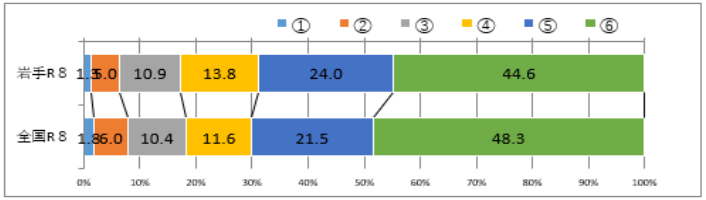
昼休みや放課後に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室（電子図書館を含む）にどれくらい行きますか

児童



①週に4回以上行く
②週に1～3回程度行く
③月に1～3回程度行く
④年に数回程度行く
⑤ほとんど行かない
⑥全く行かない

生徒



**[学校図書館の活用]
×
[正答率・スコア]**

クロス集計

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



小・国語	小・算数
0.21	0.20

※全国の社会経済的背景（SES）と正答率・スコアとの関係の詳細については、「令和８年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）（文部科学省）」P61を参照

[家にある本の冊数　児童生徒〔29〕]



・0～25冊
・26～100冊
・101冊以上

*SESの代替指標として利用

3 質問調査結果（児童生徒、学校）（６）

中学校英語はCBTで実施し、英語３技能のIRTスコアにより結果を表示している。



●平均正答率・IRTスコアと質問事項等のクロス集計

（４）調査の活用に関わることについて

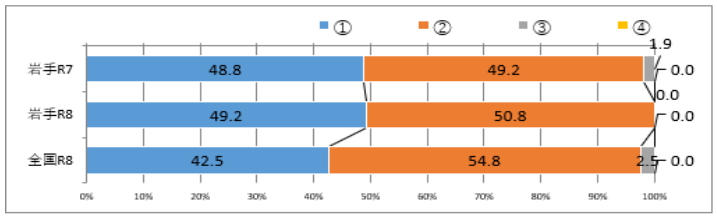
ポイント

・PDCAサイクルの確立および調査結果の活用に関して、積極肯定回答および肯定回答を示している学校の割合は、令和７年度と比較して増加し、中学校においては、平成31年度以降、積極肯定回答が初めて全国平均を上回る結果となった。
・各学校の検証改善サイクルを生かした取組を、児童生徒の資質・能力の向上につなげていくことが、引き続き重要である。
・引き続き、小問ごとの分析を通して、「各教科で解決すべき課題」と「学年や教科を超えて共通する課題」を洗い出し、授業改善に取り組むとともに、質問調査を活用し、学校全体の教育活動の評価・改善に努めていく必要がある。

学校
小学校（17）
中学校（17）

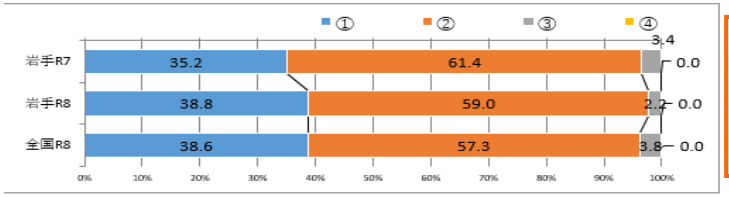
児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している

小学校



①よくしている
②どちらかといえば、している
③あまりしていない
④全くしていない

中学校

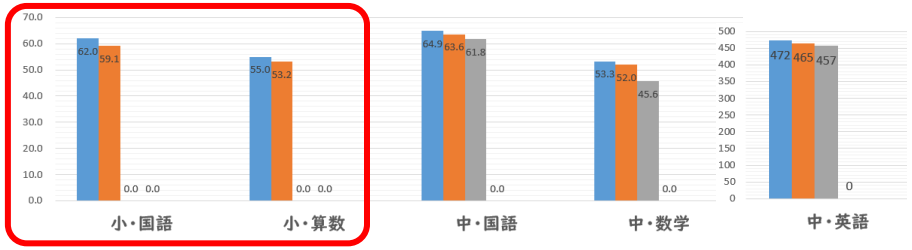


[PDCAサイクル]
×
[正答率・スコア]

クロス集計

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

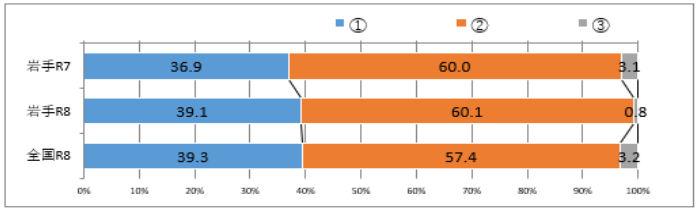
小学校は全ての学校で、「している」または、「よくしている」と回答。



学校
小学校（84）
中学校（92）

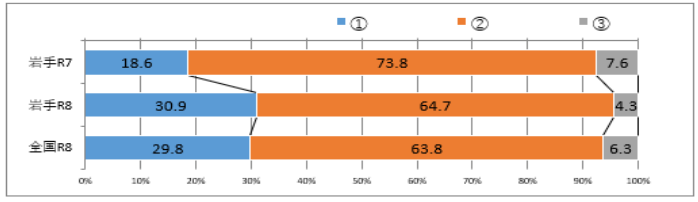
令和7年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した

小学校



①よく行った
②行った
③ほとんど行わなかった

中学校

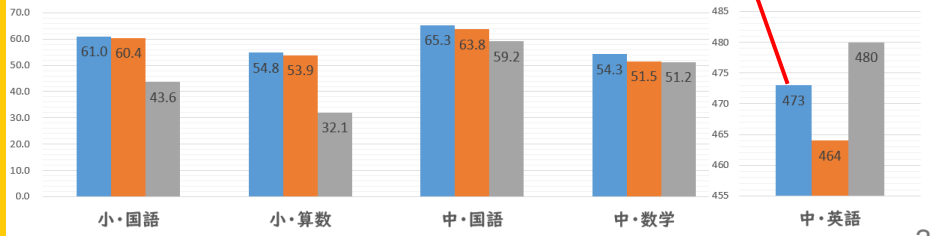


[調査結果の活用]
×
[正答率・スコア]

クロス集計

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

R7英語の教科調査実施無し。



3 質問調査結果（児童生徒・学校）（７）

児童が回答したローデータから相関係数（ピアソンの相関係数）を計算。
※　児童　ｎ＝8,092　　生徒　ｎ＝7,985

●教科調査のスコアとの相関係数が高い児童質問項目（上位５項目）

ポイント

・小学校では、「算数の授業の内容はよく分かる」「算数の勉強は得意だ」と回答した児童の平均正答率は、算数だけではなく、国語においても高い傾向が見られる。
・中学校では、「文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができる」と回答した生徒の平均正答率・スコアは、数学だけではなく、国語、英語においても高い傾向が見られる。
・「キーボード（画面上に表示されるキーボードやフリック入力も含む）を使って英語を書くことができる」に対して肯定的に解答した生徒は、英語の平均スコアが高い傾向が見られる。

小学校	国　語			算　数		
順位	問番	質問項目	相関係数	問番	質問項目	相関係数
1	(62)	算数の授業の内容はよく分かる	0.27	(60)	算数の勉強は得意だ	0.43
2	(54)	国語の授業の内容はよく分かる	0.23	(62)	算数の授業の内容はよく分かる	0.42
3	(60)	算数の勉強は得意だ	0.23	(61)	算数の勉強は好きだ	0.31
4	(48)	総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどのICT機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできている	0.23	(65)	算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える	0.31
5	(59)	国語の授業で、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている	0.22	(64)	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できている	0.29

中学校	国　語			数　学			英　語（４技能）		
順位	問番	質問項目	相関係数	問番	質問項目	相関係数	問番	質問項目	相関係数
1	(67)	文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができる	0.29	(60)	数学の勉強は得意だ	0.47	(69)	英語の勉強は得意だ	0.44
2	(39)	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	0.27	(67)	文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができる	0.46	(71)	英語の授業の内容はよく分かる	0.42
3	(62)	数学の授業の内容はよく分かる	0.24	(62)	数学の授業の内容はよく分かる	0.43	(70)	英語の勉強は好きだ	0.35
4	(65)	数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える	0.24	(65)	数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える	0.38	(74)	キーボード（画面上に表示されるキーボードやフリック入力も含む）を使って英語を書くことができる	0.32
5	(38)	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。	0.23	(61)	数学の勉強は好きだ	0.37	(67)	文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができる	0.31

4 調査結果を踏まえた今後の方向性について

学力向上 iACT-R8+

1 調査データの分析に基づいた検証改善サイクルの推進

○ 各学校の確かな学力育成方策への支援強化

・R８全国学調で特に成果の見られた学校の多くが、**「確かな学力育成プラン」**に基づき、積極的に指導改善に取り組んでいることが分かった。

＜特に成果の見られた学校の取組の例＞　※R6中学校新入生学調で県平均を下回り、R8全国学調で全国平均正答率を上回った教科があった中学校の例など

- 調査結果を踏まえ生徒個々の実態に合わせて、基礎・基本となる問題や前時までの復習等、学び直しできる場面を毎時間の授業に位置付けている。
- **タブレット端末**を活用し、単元計画を生徒と共有したり**学習の振り返り**を蓄積したり、単元のまとめをある程度の文章量で記述したりしている。
- 研究授業の際、どの単元でどのような内容を取り上げるか事前に助言者等も交えて相談し、**定番ではない授業**に積極的に挑戦するようにしている。
- **定期テスト**に向けて、評価規準等を生徒と共有し、調査問題を参考に、概念的な知識を問う選択問題や記述問題等に取り組めるようにしている。
- R7**「授業アイディア例活用促進事業」**対象教員が、今求められる授業づくりを校内で共有し、学校全体の組織的な取組としている。

・諸調査結果について、東京学芸大学や岩手大学との連携協定による**データ分析の高度化**を受けて、深い学びの実現を図る授業づくりや学習評価の充実を更に重視するとともに、**中学校英語教員の英語力向上研修**等、各教科指導の専門性や指導力の向上等について実効性の確保を図っていく。

・分析資料や効果的な取組例について、確かな学力育成プロジェクトの各会議等で共有し、広く周知を進めるとともに、課題の見られた学校の具体的な方策等について、学校訪問等を通して聞き取りや指導助言をしていく。また、**R8-9検証改善サイクルモデル校事業**により、**対話に基づく受講奨励**、教員一人一人の資質向上等を含め、学校の組織的取組と各種調査データの分析に基づいた検証改善サイクルを推進していく。

2 指導と評価の一体化による子どもの学びの質の向上

○ 目標と評価の一体化、指導と評価の一体化
～児童生徒は、何ができるようになればよいのか～

・子どもの学びの質の向上を図るには、**「児童生徒は、何かできるようになればよいのか」**のように、各教科等の資質・能力の状況をみる評価問題をあらかじめ小問レベルで具体的に想定し、**逆向き設計（Backward Design）**で、単元等のまとまりを見通し、達成に必要な指導を考え、**子どもの学びをデザインする**ことが大切である。

・一方で、算数と数学、英語の**授業づくり研修講座**のリフレクションでは、具体的な評価問題やテスト作成に不安を抱える先生方が多いことが分かった。そこで、各学校から提供のあった定期テスト等を、各教育事務所が生成ＡＩを活用して分析レポートを作成し、目標と評価の一体化を図るとともに、**「指導と評価の一体化」**の視点から深い学びの実現を図る授業づくりとセットで、**学習評価の充実**について支援していく。



1. CEFR-J 測定上限と技能別スコアバンド（得点率帯別の見取り）

技能	測定上限	100-80%	79-60%	59-40%
聞くこと	概ね A1.2 程度	日常的な会話や説明を聞き、質問に対応する情報を選択できる。確実や話題を手掛かりに、A1.2 程度の聞き取りを安定して見取れる。	A1.1 から A1.2 への移行段階として捉えられる。明示された情報は概ね捉えられるが、確実に応じた判断は限定的に見取れる。	Pre-A1 から A1.1 への移行段階。句や短い応答の聞き取りはできるが、まとまりのある会話理解には僅を要する段階である。
読むこと	概ね A1.2 程度、A2.1 の一部要素を含む	図書を作う対話文やまとまりのある文章から、必要な情報、概要、要点を関連付けて捉えられる。A2.1 の一部要素を含むが、中心は A1.2 程度である。	A1.2 程度を中心に見取れる。明示情報や本文情報に基づく選択は概ね可能であり、指示語や主題の判断は一部に支えを要する。	A1.1 から A1.2 への移行段階。英文や選択肢に支えられた内容は見取れるが、複数情報の関連は限定的である。
書くこと	概ね A1.2 程度、A2.1 の一部要素を含む	既習事項を用いて文を正確に構成し、身近な話題について複数文で説明できる。20 語以上の記述により、A2.1 の一部要素も見取れる。	A1.2 程度を中心に見取れる。話題、語彙、単文表出は概ね可能で、理由や具体例を加えた表現は一部に支えを要する。	A1.1 から A1.2 への移行段階。操作や短い英文表出は見取れるが、まとまりのある説明は限定的である。

2. 学習指導要領との対応状況

領域	観点	学習指導要領を踏まえた評価のポイント	評価問題に見られる特徴	
聞くこと	知識・技能	音声、語句、表現を、**意味のある文脈**の中で聞き取り、確実に応じて理解する力を評価します。単なる語句識別にとどめず、選択肢や絵と英語音声を結び付けて理解できるかを見取ることが大切です。	絵の内容に合う英文を選ぶ問題により、基本的な語句や表現を音声から捉える力を確認しやすい構成です。回答方法は選択式であり、基礎的な聞き取りの定着を**意味のある文脈**の中で見取れる点が特徴です。	8.7 県学調の聞いて情報を表現の定着を問では、選択一部取り入れ やすくなります
	思考・判断・	**目的・場面・状況等に応じて**話の概要や必要な情報を捉え、質問に対して適切に判断する力を評価します。	会話と質問を聞いて答えを選ぶ問題により、話題や場面を踏まえて必要な情報を捉える力を確認しやすい構成です。質問に対	8.7 県学調の聞 どから判断し 動・場面・状

3 デジタル学習基盤を活用した子どもの学びの質の向上

○ デジタル学習基盤を活用した「学びのデザイン」
～教師から子どもへ、一斉から個別へ～

・児童生徒質問調査では、**「学びの自己調整」「好奇心・挑戦心等」**の項目で、本県は小中学校ともに全国上位の状況にあることが分かっている。また、クロス集計から、授業でPC・タブレットなどの**ICT機器を「ほぼ毎日使用している」**と回答した児童生徒は、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

・児童生徒の状況に見合う**「深い学び」「個別最適な学び」**へ、家庭学習も含め、従来の授業研究、継続的な実践研究の優れた面を継承しつつ、**デジタル学習基盤を活用した「学びのデザイン」**等にひたむきにチャレンジする学校や先生方へ、支援のギアを上げていく。

・**全国学調サンプル問題（国算・国数）**の公開・事前検証に伴い、これを機に、MEXCBTの活用を促進し、そのうえで、**「子どもの学びの質の向上」**へ指導改善が一層加速するよう支援していく。

R8.10　県小中学校学習定着度状況調査
R8.10　全国学調サンプル問題公開
※ MEXCBTチェック問題（算・数英）
R9.2,3　全国学調サンプル問題事前検証
R9.4　全国学力・学習状況調査
R9.5　県中学校新入生学習定着度状況調査

4 各教科指導の改善方策（例）

重点的に取り上げたい内容等

＜小学校算数＞　**除法**（小３）、**簡単な場合についての割合**（小４）、**四角形と三角形の面積**（小５）、**速さ・割合**（小５）、**分数の除法**（小６）など
＜中学校数学＞　**移項**（中１）、**錐体**（中１）、**データの活用**（中１，２）、**式による説明**（中２）、**図形の合同**（中２）、**変化の割合**（中２）など
＜中学校英語＞　**話すこと、聞くこと**の領域で、目的・場面・状況等を適切に設定した言語活動の充実（中１，中２）など

＜小学校算数＞

○ 統合的・発展的に考える見方・考え方を働かせて数学的活動できるようにする

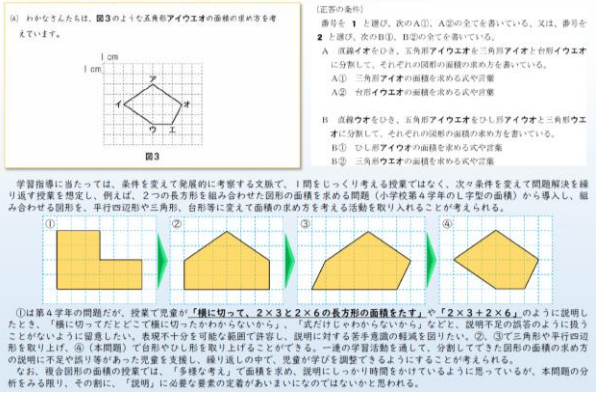
・１コマ単位に切り分ける授業づくりから、**単元や題材など内容や時間のまとまりを見通し**て、深い学びの実現を一層重視する。

○ １問の「見通し」より、複数問を通して「まとめ」でしっかり価値付ける

・１問をじっくり考える授業から、複数問で**「だんだん見通しがもてる・だんだん分かる授業」**へ転換し、テンポよく展開する。

・共通の**「まとめ」**と、個人の**「学習の振り返り」**で算数の価値付けをしっかり行う。

＜R7全国学調：小学校算数２（4）多角形＞　平均正答率：県29.6%（全国37.0%）



学習指導に当たっては，条件を変えて発展的に考察する支援で，１問をじっくり考える授業ではなく，次々条件を変えて問題解決を繰り返す授業を想定し，例えば，２つの長方形を組み合わせた図形の面積を求める問題（小学校第４学年の L 字型の面積）から導入し，組み合わせる図形を，平行四辺形や三角形，台形等に変えて面積の求め方を考える活動を取り入れることが考えられる。

①は第４学年の問題だが，授業で児童が**「横に切って，２×３と２×６の長方形の面積をたす」**や**「２×３＋２×６」**のように説明したとき，「横に切ってだとどこで横に切ったかわからないから」，「式だけじゃわからないから」などと，説明不足の誤答のように扱うことがないように留意したい。表現不十分を可能な範囲で許容し，説明に対する苦手意識の軽減を図りたい。②，③で三角形や平行四辺形を取り上げ，④（本問題）で台形やひし形を取り上げることができる。一連の学習活動を通して，分割してできた図形の面積の求め方の説明に不足や誤りがあった児童を支援し，繰り返しの中で，児童が学びを調整できるようにすることが考えられる。
なお，複合図形の面積の授業では，「多様な考え」で面積を求め，説明にじっくり時間をかけているように思っているが，本問題の分析をみる限り，その割に，「説明」に必要な要素の定着があいまいになのではないかと思われる。

○ 校内研究会、学校公開等の授業づくりで、定番ではない内容に挑戦する

・授業研究が、定番授業の焼き直しにとどまることがある。割合など、重点的に取り上げたい内容について、各学校が全国学調や県学調等の課題を踏まえ、**定番にとらわれない授業実践**に挑戦しやすいようにする。

＜中学校数学＞

○ 発展的に考える見方・考え方を働かせた数学的活動を積極的に取り入れる

・後の学習で扱う内容等を取り上げて発展的に考えるなど、**「学びのつながり」**を生徒が実感できるようにする。

第２学年「一次関数の変化の割合」（例）

≪ICT≫ 場面だけ変えた問題で，数量の関係を捉え式に表す活動≫

T：次の表で，y は x の１次関数です。
それぞれの表について，$y=ax+b$ の式で表しましょう。
T：表①を，$y=ax+b$ の式にしてください。
S：ハイ！ $y=2x+5$ です。
T：正解です。できた人？（挙手少数）
T：そうですか。もう少しやってみましょう。
表②，表③を，$y=ax+b$ の式にしてください。
S：ハイ！表②は $y=2x+1$ です。
T：正解です。できた人？（挙手少数）

	x	…	−2	−1	0	1	2	…
①	y	…	1	3	5	7	9	…
②	y	…	−3	−1	1	3	5	…
③	y	…	−5	−2	1	4	7	…
④	y	…	−1	2	5	8	11	…

えっ?! 表のどこを見たら式がわかるの？

T：それを考えるのが，今日の学習です。

S：ハイ！ハイ！表③は $y=3x+1$ です。
T：正解です。できた人？（挙手微増）
T：どんどんいきますよ。表④はどうですか？
S：ハイ！ハイ！ハイ！（挙手増）
T：かなりわかってきたみたいだね。表のどこを見たら式がわかるのか，となりの人と確認しましょう。

≪ICT≫ 場面だけ変えた問題で，数量の関係を捉え式に表す活動≫

T：次の表⑤から表⑦も，y は x の１次関数です。
それぞれの表について，$y=ax+b$ の式で表しましょう。
S：表⑤は，$y=6x+4$ でいいですか？
S：えっ？ $y=3x+4$ じゃないの？
T：おやっ？ 答えが２通りに分かれたみたいですね。
どちらが正解か，近くの人と話し合って決めましょう。

	x	…	−4	−2	0	2	4	…
⑤	y	…	−8	−2	4	10	16	…
⑥	y	…	−11	−2	7	16	25	…
⑦	y	…	3		9			…

$y=6x+4$ だと，$x=2$ のとき $y=16$ になって，$y=10$ にならないから違うよ。

S：ホントだ！ $y=3x+4$ だと $y=10$ になる。

あれっ?! 表⑥は $x=0$ がないんだけど…？

○「Ｄデータの活用」領域の成果を自信に！今後も岩手の強みとする

・新領域で導入の際、**「知識及び技能の習得とその活用」**を核とした取組が進み、全国平均正答率を上回る小問が多い。これを**岩手の強み**として継続するとともに、旧来からの領域でも、**「脱・不易！」**を進める。

＜中学校英語「聞くこと」＞

○ 自分の置かれた状況等から判断して必要な情報を聞き取る「学習過程」を意識する

学習過程

1. 自分の置かれた状況などを理解する。
   →教師やALTのSmall Talkを聞かせ、目的・場面・状況等を理解させる。
2. 英語を聞き、どういった情報を聞き取らなくてはならないかを把握する。
   →何を聞き取ればよいかを確認し、関連する語句や表現を予測させる。
3. 再び英語を聞き、自分にとって必要な情報は何かを判断する。
   →「必要な情報」のみを聞き取るよう指導する。
4. 学んだことを他の場面や状況で活用する。
   →別の評価問題等を活用し、目指す力が付いているか確認する。

（参考）令和５年度全国学力・学習状況調査　中学校英語
調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に関する指導資料pp.３～８

ＡＬＴが話す内容（スクリプト）

Now, I will tell you about what you are going to do. You are going to work in 3 groups. Each group will make different parts of the poster. Group 1, you will draw pictures and shapes to decorate the poster. Please use the space near the blackboard at the front of the classroom. Markers are in this classroom. Group 2, your job is to cut colored paper into star shapes. You can work near the lockers at the back of the room. You need to bring scissors and pens. They are also in the classroom. Be careful when using scissors. Group 3, I want you to make paper flowers. The paper is in the space next to the library, so you need to go there. Please bring it to your work space by the windows and make the flowers there. When you finish your group work, Group 1 and Group 3 will put your pictures and flowers on the big poster paper. Then, Group 2 will add the star shapes around them. Finally, everyone will write your welcome messages in English on the extra star shapes. Let's make a great poster together! Let's start.

※黄色はグループ名、桃色は仕事の内容、緑色は作業する場所、を表す。

What do you need to listen to? Do you do an individual work?

No. We do a group work.

Yes. You need to listen to "your group." What else do you need to listen to?

「仕事の内容」「（作業する）場所」

生徒

○「聞くこと」におけるデジタルの効果的な活用に向けて

・**デジタル教科書やリスニング問題の音声データ等を活用する**など、自然な口調で話される英語を耳にする機会を増やすとともに、生徒が各自のペースで語句や表現、音の変化などを確認したり、聞き取れなかった語句や表現を確認したりできるようにする。